

つ つなげよう未来へ！  
し 市民協働による  
ま まちづくり



平成30年度

# 組織目標の成果

～ 「協働型市政の確立」を目指して～



長崎県対馬市

… アジアに発信する歴史海道都市 対馬 …

# ～ 目 次 ～

I	組織目標の評価一覧	・・・・・・・・	1
II	組織目標の成果（個票）	・・・・・・・・	4
1	総務部	・・・・・・・・	4
2	しまづくり推進部	・・・・・・・・	8
3	観光交流商工部	・・・・・・・・	17
4	市民生活部	・・・・・・・・	23
5	福祉保険部	・・・・・・・・	27
6	健康づくり推進部	・・・・・・・・	29
7	農林水産部	・・・・・・・・	31
8	建設部	・・・・・・・・	40
9	水道局（部）	・・・・・・・・	42
10	中対馬振興部	・・・・・・・・	44
11	上対馬振興部	・・・・・・・・	45
12	消防本部	・・・・・・・・	47
13	教育委員会事務局	・・・・・・・・	50

## 平成30年度 対馬市組織目標の評価一覧

部署	コード		目 標	評 価
	全体	個別		
総務部	1	01-01	情報発信の強化と広聴機会の定期的な開催	△
	2	01-02	安全安心のまちづくりの推進	△
	3	01-03	健全な財政運営の執行と財政状況のわかりやすい公表	○
	4	01-04	入札・契約の適正化	○
しまづへの推進部	5	02-01	第2次対馬市総合計画の進捗管理の実施	×
	6	02-02	対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理及び必要に応じた見直しの実施	◎
	7	02-03	対馬市景観計画に基づく対馬市景観条例の制定	○
	8	02-04	国際航路に国内旅客を混乗させる取組の推進	◎
	9	02-05	様々な機関や業種団体と連携した産業の振興	○
	10	02-06	島内エネルギー自給率向上に向けた取組み推進	○
	11	02-07	大学と地域との連携推進（域学連携）	◎
	12	02-08	地域マネージャー活動活性化事業	△
	13	02-09	U・Iターン推進事業	◎
観光交流商工部	14	03-01	観光客の受入体制の整備	△
	15	03-02	地場産品の更なる消費拡大への取組み	○
	16	03-03	新規参入事業者の誘致と既存事業者への支援による商工業の活性化	△
	17	03-04	国際交流イベントや朝鮮通信使行列の世界記憶遺産登録を活用した交流人口拡大	○
	18	03-05	ツシマヤマネコ・生物多様性保全活動の推進	○
	19	03-06	対馬固有の遺跡や文化財の保存・活用	△
市民生活部	20	04-01	個人番号制度の普及、啓発	△
	21	04-02	滞納処分の強化	○
	22	04-03	各種団体が連携したリサイクル、ゼロ・エミッションの推進	△
	23	04-04	漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策の推進	○

部署	コード		目 標	評 価
	全体	個別		
福祉保険部	24	05-01	高齢者の生きがいの創出	○
	25	05-02	入所保留（待機）児童の解消	△
健康づくり推進部	26	06-01	特定健診の受診率向上	○
	27	06-02	第1層及び第2層の生活支援コーディネーターの配置及び協議体の設立	◎
農林水産部	28	07-01	対馬椎茸“やる倍”ナバダス計画総合対策支援事業	△
	29	07-02	対馬猪鹿活用促進事業	○
	30	07-03	学校給食地場農林水産物導入事業	○
	31	07-04	対馬の農林水産業担い手・『林業女子』育成及び『人財』発掘事業	○
	32	07-05	農林水産振興施設建設事業	◎
	33	07-06	島内での供給システムの構築	△
	34	07-07	新規漁業研修生への支援	◎
	35	07-08	海洋保護区の設定	○
	36	07-09	基盤整備工事の早期発注、早期完成	△
建設部	37	08-01	市営住宅使用料未収金の縮小	△
	38	08-02	公共工事の早期発注・早期完成	◎
（水道局）	39	09-01	水道料金の収納率向上	△
	40	09-02	水道事業の有収率向上	△
振中興対馬	41	10-01	中対馬未来づくりアクションプラン 個別事業の実現化準備	○
振上興対馬	42	11-01	対馬の自然を活かした観光地の整備	△
	43	11-04	公共工事の早期発注・早期完成	○
消防本部	44	12-01	地区消防団員の増員、車両の適正配置及び資機材の充実整備	△
	45	12-02	応急手当の普及啓発活動	○
	46	12-03	違反公表制度開始に伴う消防用設備等設置指導	△

部署	コード		目 標	評 価
	全体	個別		
教育委員会事務局	47	13-01	島っこ留学制度による留学生の招致推進	◎
	48	13-02	ふるさと対馬を愛し、豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成	○
	49	13-03	地域の特性を活かした生涯学習の推進	△
	50	13-04	文化財の保存・活用	◎

## ■ 集 計 表

項 目		結 果
◎	目標を上回る実績	10
○	目標どおりの実績	20
△	目標を下回る実績	19
×	目標を著しく下回る実績	1
—	評価不能	0
計		50

全体	1
個別	01-01

平成30年度 [ 総 務 部 ] 目標の成果

課 名	総 務 課
-----	-------

区分	項 目	情報発信の強化と広聴機会の定期的な開催
1	【 内 容 】 市政への関心を高めるとともに行政を身近に感じてもらうため、行政情報の発信を強化します。また、市長への提言や意見交換など訪問型スタイルの広聴機会を設け、市民の声を市政に反映させるため、市長へ提言「かっちえて!しまづくり」、地域よりあい d e 「ざっくばらん」を定期的で開催し、市民協働のまちづくりを推進します。  ○市長へ提言「かっちえて!しまづくり」 第2次対馬市総合計画に掲げる4つの挑戦「ひとづくり」「なりわいづくり」「つながりづくり」「ふるさとづくり」に基づく市民団体及びグループからの提言機会です。 ○地域よりあい d e 「ざっくばらん」 地域づくりの主役である市民の意見を直に伺うため、行政区を対象に定期的で開催されている地区集会などにおじゃまし、地域づくりなどについて意見交換を行う機会です。  【 指 標 】 ○対馬市CATV「つしまる通信」を活用した行政情報の発信 →1日1出演（毎週月～金曜日：1日5分程度） ○市長へ提言「かっちえて!しまづくり」 →年4回の開催 ○地域よりあい d e 「ざっくばらん」 →年5回の開催	
2	実績（成果）	○ 教えて!市役所さん：毎日放送（1日5分程度）  ○ 市長へ提言「かっちえて!しまづくり」：1回開催  ○ 地域よりあい d e 「ざっくばらん」：2回開催
3	評価	△  30年度6月から開始した「教えて!市役所さん」は、各部局担当者とアナウンサーによる質疑応答形式で分かりやすい行政情報発信に努めており、更に月曜から金曜まで毎日放送しているため市民に定着していると思われまます。 また、市長への提言や意見交換など訪問型スタイルの広聴機会である市長へ提言「かっちえて!しまづくり」及び地域よりあい d e 「ざっくばらん」については、広報や対馬市CATVなどで周知しているものの申し込みが少なく目標を大きく下回る結果となりました。
4	今後の展開	引き続き、教えて!市役所さんを放送しますが、視聴者や有線テレビ放送番組審議会などのご意見を受け、毎日放送から週3日（月水金）に変更するとともに行政情報発信の更なる強化を図るためSNSの活用を検討します。 また、市長へ提言「かっちえて!しまづくり」及び地域よりあい d e 「ざっくばらん」についても、引き続き実施しますが、昨年度の実績を考慮し、周知方法の見直しはもちろんのこと、市民のニーズに合った新たな広聴機会も検討します。

全体	2
個別	01-02

## 平成30年度 [ 総 務 部 ] 目標の成果

課 名	総 務 課 地 域 安 全 防 災 室
-----	------------------------

区分	項 目	安全安心のまちづくりの推進
1	【 内 容 】	
組織 目 標		<p>洪水、豪雨、高潮、地震等の災害に対して、地域住民の自助・共助による取組を促進するとともに、防災・災害対策に取り組む組織的な体制を整備することにより、安全安心のまちづくりを図ります。</p> <p>【 指 標 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織の新規結成 3 地区</li> <li>・ 防災関係各種マニュアルの作成・改正による防災体制の整備</li> <li>・ 空家対策に関する組織体制の構築</li> </ul>
2	実 績 ( 成 果 )	<p>地域住民の自助・共助による取組の促進のため、啓発を行うとともに、自主防災組織の結成や活動を支援するため、平成30年6月に補助制度を創設しました。</p> <p>組織的な防災体制の構築については、各種マニュアル案の検討を行うとともに、個別の例規等の策定にとどまらず、最上位の計画である地域防災計画の改正を含め、防災関係の各種例規等について総合的に調整することとし、全体の調整方針について検討を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織の新規結成 1 地区</li> <li>・ 災害時職員初動マニュアル等の案及び策定の優先順位等を検討</li> <li>・ 「空家等対策計画」について、既往調査を含め素案を検討</li> </ul>
3	評 価	<p style="text-align: center;">△</p> <p>自主防災組織の結成促進については、新規結成3地区の目標に対し、実績は1地区の結成にとどまりました。</p> <p>防災関係各種マニュアル等の整備については、個別のマニュアル等の策定に先立ち、全体の調整方針をまとめたため、平成30年度におけるマニュアル等の策定実績はありません。</p> <p>「空家等対策計画」の素案については、住民からの苦情等のあった案件への対応を通じて事例を蓄積し、素案の検討に反映しました。</p>
4	今 後 の 展 開	<p>自主防災組織の結成促進のため、引き続き自主防災活動の重要性等について啓発を行い、結成促進を図ります。</p> <p>防災関係の例規等については、いずれも重要なものではありませんが、全体の調整方針に沿って策定の優先順序を設け、まず防災体制組織や職員配備基準等を定めた職員初動マニュアルの改訂を行い、次いで業務継続計画はじめ各種例規・マニュアル等について整備を進めます。</p> <p>空家等対策計画については、令和元年度に策定します。</p>

全体	3
個別	01-03

平成30年度 [ 総 務 部 ] 目標の成果

課 名	財 政 課
-----	-------

区分	項 目	健全な財政運営の執行と財政状況のわかりやすい公表																			
1	<p>【 内 容 】</p> <p>市の財政状況や予算・決算などについて、広報・ホームページにわかりやすい形で掲載し、市の財政状況に関する市民の理解を深められるように努めます。</p> <p>【 指 標 】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>公表項目</th> <th>ホームページ</th> <th>市報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度当初予算概要</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平成29年度下半期及び平成30年度上半期予算の執行状況</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平成29年度決算</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平成29年度健全化判断比率、資金不足比率及び財務諸表</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>平成29年度財務書類（財務4表）</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	公表項目	ホームページ	市報	平成30年度当初予算概要	○	○	平成29年度下半期及び平成30年度上半期予算の執行状況	○	○	平成29年度決算	○	○	平成29年度健全化判断比率、資金不足比率及び財務諸表	○	—	平成29年度財務書類（財務4表）	○	—		
公表項目	ホームページ	市報																			
平成30年度当初予算概要	○	○																			
平成29年度下半期及び平成30年度上半期予算の執行状況	○	○																			
平成29年度決算	○	○																			
平成29年度健全化判断比率、資金不足比率及び財務諸表	○	—																			
平成29年度財務書類（財務4表）	○	—																			
2	<p>・ 財政状況等公表状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>公表項目</th> <th>ホームページ</th> <th>市報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度当初予算概要</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平成29年度下半期及び平成30年度上半期予算の執行状況</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平成29年度決算</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平成29年度健全化判断比率、資金不足比率及び財務諸表</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>平成29年度財務書類（財務4表）</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	公表項目	ホームページ	市報	平成30年度当初予算概要	○	○	平成29年度下半期及び平成30年度上半期予算の執行状況	○	○	平成29年度決算	○	○	平成29年度健全化判断比率、資金不足比率及び財務諸表	○	—	平成29年度財務書類（財務4表）	○	—		
公表項目	ホームページ	市報																			
平成30年度当初予算概要	○	○																			
平成29年度下半期及び平成30年度上半期予算の執行状況	○	○																			
平成29年度決算	○	○																			
平成29年度健全化判断比率、資金不足比率及び財務諸表	○	—																			
平成29年度財務書類（財務4表）	○	—																			
3	<p>○</p> <p>当初予算をわかりやすく説明した「対馬市のしごと 平成30年度の予算」を作成し、市内全世帯に配付するとともに、ホームページに掲載しました。</p> <p>平成29年度の決算状況についても公表しました。</p> <p>統一基準による財務書類（財務4表）（平成29年度分）を作成し、ホームページに掲載しました。</p>																				
4	<p>今後の展開</p> <p>今後ますます厳しい財政状況となることが予想されるので、しっかりとした財政見通しを立て、健全な財政運営に努め、市の財政状況について市民にわかりやすい形で公表していきます。</p>																				



全体	4
個別	01-04

## 平成30年度 [ 総 務 部 ] 目標の成果

課 名	財 政 課
-----	-------

区分	項 目	入札・契約の適正化
1	【 内 容 】 常に入札契約制度の検証を行い、公正性の確保・客観性・透明性の向上に努めます。また、現下の経済情勢を考慮し、国・県の動向と歩調を合わせ、適正な落札率となるよう運用を図ります。 また、現在の入札参加資格者申請について検証を行い必要に応じ、改めるよう努めます。	
組織目標	【 指 標 】 ・最低制限基礎価格の乗率を建設工事については90%、コンサル業務、役務については75%とすることを継続し適正な落札率となるよう運用を図ります。 ・現在の入札参加資格者申請について、検証を行い、必要に応じて改めます。 また、業者の格付けについても検証し、必要に応じて改めます。  ・当初発注予定工事公表分（57件）の入札実施目標 ・第1四半期 21件                      ・第2四半期 32件 ・第3四半期 4件                      ・第4四半期 0件 ・平成27年度より入札時に提出を義務づけた工事費内訳書について引き続き制度の周知徹底に努めます。	
2	実績（成果）	本課が取り扱った入札契約件数は、建設工事122件、建設工事関連コンサルの入札60件、物品・役務等57件で、平均落札率は、建設工事では92.02%でほぼ昨年と同等の落札率でした。また、コンサル業務の平均落札率は84.46%でした。物品・役務の平均落札率については81.61%でした。
3	評価	○ 落札率はほぼ昨年と同等であり、適正に推移しているものと考えます。 建設工事の入札における工事費内訳書の提出により見積能力が低い不良・不適格業者の参入を排除し、併せて談合等の不正行為やダンピング受注の防止を図りました。 建設業者等の信用及び技術力等を重視するとともに公正自由な競争を図ることができました。
4	今後の展開	入札契約制度を常に検証し、公正性・公平性・客観性を追求し、制度の構築に努めます。

全体	5
個別	02-01

## 平成30年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	政策企画課
----	-------

区分	項目	第2次対馬市総合計画の進捗管理の実施
1	【内容】 平成28年度から開始した第2次対馬市総合計画を推進するため、外部委員で組織する総合計画審議会において、各施策の進捗状況や目標の達成状況、事業内容について検証します。	
組織目標	【指標】 施策の進捗状況・目標の達成状況の把握、事業内容の検証 ⇒総合計画審議会の開催1回	
2	実績（成果）	◎対馬市総合計画の主要施策、事業の各部局への進捗状況調査：未実施 ◎上記により、対馬市総合計画審議会：未実施
3	評価	対馬市総合計画の主要施策、事業の各部局への進捗状況調査及び調査結果による対馬市総合計画審議会を実施できませんでした。
4	今後の展開	対馬市総合計画審議会にて、「ひとづくり」、「なりわいづくり」、「つながりづくり」、「ふるさとづくり」の4つの挑戦において、14の最優先課題、36の具体的な施策の進捗状況、各目標項目の達成状況等の検証を行い、令和2年度に予定されている計画の見直しに向けた事前検討を行います。

全体	6
個別	02-02

## 平成30年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	政策企画課
----	-------

区分	項目	対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理及び必要に応じた見直しの実施
1	【内容】	平成27年度に策定した「対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる各種施策の進捗状況及び重要業績評価指標（KPI）の達成状況を、外部委員等で組織する総合戦略推進会議において検証するとともに、新たなニーズや社会情勢の変化に応じ、総合戦略の見直しを行います。
組織目標	【指標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合戦略に掲げる施策の実施状況、各重点戦略に掲げるKPIの達成状況の把握と検証 ⇒総合戦略推進会議の開催1回</li> <li>●KPI達成のため、地方創生交付金活用の推進 ⇒地方創生推進交付金の新規申請件数2件</li> <li>●戦略の見直し ⇒総合戦略推進会議の開催1回</li> </ul>
2	実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる施策の実施状況、各重点戦略に掲げるKPIの達成状況の把握と検証のため、対馬市総合戦略推進会議を開催し、各主要事業の成果を検証するとともに市議会全員協議会にて意見聴取を行い、国へ報告しました。</li> <li>●KPI達成のため、地方創生推進交付金の活用を推進した結果、令和元年度新規申請として、市単独1件、長崎県等との共同1件の計2件の採択を受けました。</li> <li>●新規事業追加のための総合戦略の見直しについては、県等との協議の結果、軽微な変更での対応となり見直しは不要となりました。</li> </ul>
3	評価	<p>国の指示どおり総合戦略推進会議により「対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の主要事業及び平成29年度地方創生推進交付金事業の評価・検証を実施するとともに地方創生推進交付金においても令和元年度申請にて、2件の新規採択を受けました。</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">◎</p>
4	今後の展開	「対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が令和元年度で終了することから、これまで5年間の総検証を行うとともに、令和2年度から5カ年間の第2期「対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

全体	7
個別	02-03

## 平成30年度 [しまづくり推進部] 目標の成果


課名	政策企画課
----	-------

区分	項目	対馬市景観計画に基づく対馬市景観条例の制定
1	【内容】 平成29年度に景観に関する現況調査を実施するとともに、外部委員を含めた景観計画策定委員会での協議を進め、景観形成に向けた課題整理及び景観計画を策定しました。 本年度は、本計画の周知及び住民説明会等の実施により一定の合意形成を図ったうえで対馬市景観条例を制定します。	
組織目標	【指標】 昨年度策定した景観計画（素案）に基づき、各地区説明会の開催及び、重点地域（城下町地域）での説明会及び意見交換会の開催により一定の合意形成の基、本年度、対馬市景観条例を制定します。	
2	【地区説明会の実施】 11月9日（金）峰町、11月12日（月）上対馬町、11月13日（火）上県町、11月14日（水）美津島町、11月15日（木）巖原町、11月16日（金）城下町、11月19日（月）豊玉町	
実績（成果）	【パブリックコメントの実施】 平成30年11月1日（木）～平成30年11月20日（火）  12月議会へ上程し、可決されました。	
3		パブリックコメント及び、7回の地区説明会を経て市議会12月定例会へ上程し、可決され、平成30年12月21日に公布、平成31年4月1日から施行されました。
評価	○	
4		これまでも、広報及びCATVで周知を行っていますが、今後も良好な景観形成に向けた周知活動を行っていきます。
今後の展開		

全体	8
個別	02-04

## 平成30年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	政策企画課
----	-------

区分	項目	国際航路に国内旅客を混乗させる取組の推進
1	【内容】 対馬北部地域と本土とを直接結ぶ唯一の航路は比田勝～博多間のフェリー航路のみであり、高齢化が進む北部市民が厳原港や対馬空港を利用するためには身体的、経済的に大きな負担が生じています。 このことから、福岡市と釜山市を結ぶ国際航路船に対馬北部からの国内旅客を混乗させていただき、比田勝～博多間の移動手段として利用することで、市民の生活利便性の向上と福祉の充実に図ります。 【指標】 ・九州郵船(株)、JR九州高速船(株)、対馬市で3者協議を実施 ・国土交通省との協議及び許可 ・CIQ関係省庁との協議、了承 ・国際港湾施設管理者との使用協議 ・市民への周知	組織目標
2	実績(成果) 平成30年7月23日 運航開始  ・JR九州高速船(株)、九州郵船(株)、対馬市において3者協議を5回実施 ・運航開始に向け協議を行い、九州運輸局を通じて国交省へ協議の進捗状況を報告 ・運航事業者から国土交通省へ許可申請提出後許可 ・運航開始にあたりCIQ関係機関と協議を重ねビートル船内の改修確認後、問題点の回避のため運航マニュアルを作成 ・国際港湾施設管理者(長崎県・福岡市)と最終確認 ・北部地域の住民説明会、市報、CATV、HPで周知 ・運航開始初日に、セレモニーを開催	
3	評価 	福岡市と釜山市を結ぶ国際航路船に比田勝港から、国内旅客が混乗できる事になり、比田勝～博多間の移動手段として利用することで、北部市民の生活利便性の向上と福祉の充実にする目的を達成できました。このことにより、高齢化が進む北部市民の身体的、経済的負担の軽減となりました。
4	今後の展開	運航を開始して、福岡発の利用率が伸び悩んでいます。これは、福岡発時間が他の交通機関に比べて、早い時間に福岡を出港するという問題はあるが、対馬島外への周知ができていないことも要因の1つです。 このことから、今年度、福岡市を中心として、テレビ、ラジオの商業や博多駅前のデジタルサイネージで周知し、混乗便の利用促進を図ります。 これに加えて、新たな旅行商品を検討して、島外の国内旅客を誘客し、交流人口を拡大することで、混乗便の利用促進を図ります。

全体	9
個別	02-05

平成30年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	しまの力創生課
----	---------

区分	項目	様々な機関や業種団体と連携した産業の振興
1	【内容】 事業者団体、金融機関、大学などの研究機関、行政、その他産業振興に携わる団体等で構成する「対馬市創業支援会議」において、創業を希望する方を多方面から総合的に支援し、産業振興と雇用の増加により地域の活性化を目指します。また、特定有人国境離島の地域社会の維持に係る交付金による雇用機会拡充支援事業を活用し、雇用を伴う創業や事業拡大を行う民間事業者の支援を行います。	
組織目標	【指標】 ・ワンストップ相談窓口等での相談受付：50件 ・創業者の目標数：10件 ・雇用者の目標数：30名 ※創業等支援事業と雇用機会拡充支援事業の合計での目標数値 ・創業支援事業計画の更新	
2		○ワンストップ相談窓口等での相談受付 受付数 79件 ○創業者数 10件 ○雇用者数 46名 ○創業支援事業計画の更新 済
実績（成果）		
3		相談件数、創業者数、雇用者のいずれも数値が目標以上に達成できました。 また、創業支援事業計画も更新できました。
評価	○	
4		ワンストップ相談窓口の積極的な利用をお願いし、創業希望者の掘り起こしや、相談者が事業を進めやすい（雇用を生みやすい）環境を整えます。 また、対馬で働き続けるために必要な資格の取得や購入の受講に必要な経費を補助します。
今後の展開		

全体	10
個別	02-06

## 平成30年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	しまの力創生課
----	---------

区分	項目	島内エネルギー自給率向上に向けた取組み推進
1	【内容】 対馬では、島内で消費するエネルギーの大半を島外から輸送される化石燃料に依存している状況にあり、エネルギーの安定供給の観点からも島内のエネルギー自給率向上を図ることが重要です。そこで、下記について取り組むことで、エネルギー自給率の向上を図ります。  ○上対馬振興部、豊玉診療所への再エネ設備導入	
組織目標	【指標】 ○最適なシステム検討のためのデータを収集します。	
2		豊玉診療所と上対馬振興部にデマンド計測装置を設置し、1年間の電力デマンド(30分単位の電力使用量)データを取得しました。
実績(成果)		
3		電力デマンドデータを取得したことで、電気の使用パターンや、最大デマンドを把握することができました。これにより、再生可能エネルギーを効率良く使用するための導入規模と、それによる費用対効果を詳しく検証することができます。
評価	○	
4		精度向上のため、引き続きデマンドデータの計測を継続しながら、電力使用パターンに合わせた最適な再生可能エネルギー設備の検討を行い、事業性の評価を行います。
今後の展開		

全体	11
個別	02-07

## 平成30年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	しまの力創生課
----	---------

区分	項目	大学と地域との連携推進（域学連携）
1	【内容】 大学が身近に無い離島において、大学が身近に感じられるような環境を整え、都市部学生の若い力や教員の知識・ノウハウ等によって島づくりの後押しを行うとともに、島づくりを担う移住定住人財の誘引、対馬ファン・リピーターの確保を行うことで、対馬の新たな価値と産業を創造します。	
組織目標	【指標】 ・学生の受入数 500名 ・大学教員（研究者）の受入数 100名 ・リピート学生の受入数 100名 ・学生卒業後の移住定住数 年1～2名	
2	・学生の受入数 539名 ・大学教員（研究者）の受入数 139名 ・リピート学生の受入数 203名 ・学生卒業後の移住定住数 2名	
実績（成果）	域学連携地域づくり推進事業により、島おこし実践塾、学生実習、学術研究奨励補助、対馬学フォーラム、都市部での活動報告会等を実施しました。	
3	再来島した学生が平成29年度104名に対して203名に増加しました。再来島した学生は、より専門的で深い研究や実践活動、地域との交流ができており、「関係人口」づくりの観点からも大きな成果と言えます。	
評価	◎	
4	本事業は地方創生推進交付金を活用しており、令和元年度は交付金活用の最終年度となります。今後の事業の継続・展開について、次年度、連携協定を有する大学の中心教員にお集まりいただき、域学連携の今後の推進について意見交換を行い、施策の見直しや改善をしていきます。	
今後の展開		



全体	12
個別	02-08

## 平成30年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	しまの力創生課
----	---------

区分	項目	地域マネージャー活動活性化事業
1	【内容】 「地域自らが考える将来ビジョン」である『地域づくり計画』は29か所（87行政区）、『行動宣言』は54カ所（98行政区）での策定に留まっています。また、職員数の減少に伴う業務量の増加や地域課題の多様化・複雑化などを背景に、同制度が掲げた役割を果たすことができていない地域も見受けられます。 29年度に校区の再配置を行うなど地域と地域マネージャーが「つながる」しかけ作りを行いました。本年度は「つなげるためにつなげる」をテーマに制度活性化に向けて本格実施に着手します。	
組織目標	【指標】 ・定期的に校区会議を開催し、情報提供及び情報共有に努めます。 ・地域マネージャーと地域との「つながり状況」を定期的に把握し必要に応じてサポートを行います。 ・対馬市市民協働（共働）推進本部会議を開催し、全庁的な活性化にむけた気風をつくります。 ・「地域づくり計画」「行動宣言」の新規策定 10地区	
2	◆「地域づくり計画」の新規策定 2地区（琴地区・茂木地区） ◆「行動宣言」の新規策定 1地区（浜久須地区）	
実績（成果）	「地域づくり計画」「行動宣言」の新規策定は3地区に留まったものの、29年度と比べると30年度は下記のとおり、地域マネージャー活動の活性化が図られました。  ●のべ活動時間数（時間外勤務） 202.5時間 ⇒ 275.5時間 ●のべ従事職員数 56人 ⇒ 92人 ●のべ従事行政区数 36地区 ⇒ 56地区	
3	4月に校区会議、2月に校区会議及び研修会を開催し、地域マネージャー活動の活性化を図りました。 計画及び宣言については、活動自体の底上げをすることができたものの、策定は3地区に留まりました。	
評価	△	
4	職員数の減少・業務量の増加により、地域マネージャー業務を行う時間の確保が困難になっていることに加え、地域担い手の減少や、未だ地区との関係が構築できていない地区もある状況です。 地域マネージャーの基本ミッションを『「住民同士の顔見知りの関係」＝「つながり」づくりを校区（行政区）担当の地域マネージャーがお手伝い』、と設定し、引き続き定期的な校区会議の開催により、情報提供や情報連携を図ります。	
今後の展開		

全体	13
個別	02-09

## 平成30年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	しまの力創生課
----	---------

区分	項目	U・Iターン推進事業
1	組織目標	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住希望者へのワンストップ窓口「しまぐらし応援室」にて、U・Iターン者のニーズに対応します。</li> <li>・対馬市移住・定住支援補助金を交付し、U・Iターン者数の増加を図ります。</li> <li>・島おこし協働隊として「しまぐらしコーディネーター」を雇用し、移住者目線でのサポートを充実させます。</li> <li>・各種移住相談会へ参加し、対馬市の情報発信を行うとともに移住希望者の掘り起し及び移住者のニーズを調査します。</li> </ul> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・U・Iターン関係相談者数 70名</li> <li>・移住者数 60名</li> </ul>
2		<p>【補助金交付実績】 ふるさと就職奨励補助金：10件1,000千円、結婚移住奨励補助金：14件700千円、しま暮らし支援補助金：41件6,361千円、空き家改修費等補助金実績2件789千円 総計：67件8,850千円</p> <p>【移住お試し住宅実績】 18件のべ416日の利用⇒7件11名の移住実績</p> <p>【定住支援住宅実績】 久田3世帯分（2世帯8人入居）、古里2世帯分（2世帯3名入居）を整備完了後活用中</p> <p>【移住相談会実績】 大都市（東京・大阪・福岡）で開催された相談会へ参加。対応者67名⇒うち移住決定5件6名</p> <p>◆相談件数502件（移住者及び合同相談会にかかる企業からの問合せ含む）</p> <p>◆移住者数115名</p>
3	評価	<p>相談件数、移住者実績ともに目標値を大きく上回りました。補助金制度への相談にて移住者の実態把握が容易になりました。</p>
4		<p>◎</p>
4	今後の展開	<p>対馬市が望む移住者ターゲットを「子育て世帯」と設定し、ターゲットに合わせた情報発信や環境整備を実施します。また、補助金申請により移住者の情報を把握しやすい環境は整ったため、今後は、移住後のフォローを充実させ、Uターンの方には対馬に帰ってみようと思わせるような、Iターンの方には対馬を移住先として選んでもらえるような施策展開が必要と考えます。</p>

全体	14
個別	03-01

## 平成30年度 [ 観光交流商工部 ] 目標の成果

課名	観光商工課
----	-------

区分	項目	観光客の受入態勢の整備
1	【内容】 平成29年度に策定した対馬市観光基盤整備方針に基づき、トレッキングコースを優先順位が上位のものから実施します。	
組織目標	【指標】 白嶽ルートへの整備	
2	◆白嶽ルート整備 ・ルートマーク（登山用目印） 344枚設置 ・ルートマーク（登山用矢印） 37枚設置 ・分岐点案内板設置計画策定 7カ所	
実績（成果）		
3	△	白嶽登山ルートマーク（目印・矢印）等については、実績のとおり設置し、利用者の利便性向上と安全性を確保しましたが、案内板の設置工事は、実施できませんでした。
評価		
4		今後もその他の登山ルート整備については、利用者の利便性及び安全性の向上を図ることを目的に、案内板等設置計画や案内板設置に向けて取り組みます。
今後の展開		

全体	15
個別	03-02

## 平成30年度 [ 観光交流商工部 ] 目標の成果

課名	観光商工課
----	-------

区分	項目	地場産品の更なる消費拡大への取組み
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>観光物産展等の開催や出展、福岡事務所や対馬観光物産協会と連携し、対馬の特産品の販路拡大及び対馬産品取扱店舗拡大に取り組みます。</p> <p>情報発信の拠点である「よりあい処つしま」で、定期的な対馬フェアを開催し、集客・誘客、対馬特産品販路拡大を図ります。</p> <p>「海山交流」を行っている地域と、物産・人・情報交流事業に取り組みます。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物産展売上額 11,000千円</li> <li>・対馬食材フェア開催 4会場</li> </ul>
2		<p>平成30年度は、主に福岡県内、大阪などで物産展を行い、売上合計は10,211千円でした。</p> <p>「よりあい処つしま」では開店5周年を記念して穴子フェアを実施し、お越しいただいたお客様に対馬の特産品を提供し、認知度向上を図りました。また、「よりあい処つしま」として、RKBラジオまつりに初出展し、穴子弁当をメインに生ウニや蜂蜜等の特産品の売れ行きも好調で大盛況でした。</p> <p>明治維新150年を記念した鳥栖市のイベントとコラボして、対馬食材フェアや物産展を5回実施し販路拡大を図りました。</p> <p>海山交流イベントは、熊本県山江村と岐阜県中津川市と各1回交流事業を実施しました。</p>
3	評価	<p>指数については、物産展売上額は僅かに目標額に達しませんでした。13会場で開催し、対馬食材フェアに関しては43店舗で対馬食材を利用いただき、販路拡大及び認知度向上に繋がりました。</p>
4		<p>都市圏で物産展等を開催（出展）することで対馬の特産品の認知度向上を図るとともに販路拡大を行います。</p> <p>よりあい処つしまの移転を転機として、取扱商品の充実と新たな販路拡大に取り組みます。</p>
	今後の展開	

全体	16
個別	03-03

## 平成30年度 [ 観光交流商工部 ] 目標の成果

課名	観光商工課
----	-------

区分	項目	新規参入事業者の誘致と既存事業者への支援による商工業の活性化
1	【内容】 人口減少や少子高齢化、担い手不足、後継者不足などにより市内の商工業は低迷し続けています。一方で有効求人倍率の改善や外国人観光客の増加など、商工業の環境は悪い状況だけではありません。 現状の環境下において、商工業の活性化を推進するためにも、市内の商工業者が、観光客のみならず住民にとっての満足度を向上させ、事業承継や雇用条件の改善を図ることを推進します。	
組織目標	【指標】 ・対馬市商工業活性化推進事業補助金 採択件数 21件 ・商工業活性化協議 年10回以上 ・雇用条件改善策の策定 1件 ・制度融資の活用 年5件	
2	以下のとおり目標に対しての成果がありました。 ・対馬市商工業活性化推進事業補助金 採択件数 23件 ・商工業活性化協議（商工会、その他事業者） 10件以上 ・制度融資の活用 2件（新規）	
実績（成果）		
3	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>対馬市商工業活性化推進事業補助金については、採択件数が23件となり、小規模事業者にとっては、良い結果となったと事業の1次審査者である対馬市商工会から評価を受けた結果となりました。 設備投資については一定の目標を果たしたとして本事業は終了しました。</li> <li>対馬市商工会とは、市の事業の推進について随時相談し、一方で、商工会の事業についての相談を受けることで、日々協議を行っています。</li> <li>資金需要がある程度落ち着いたこともあり、制度融資については新規利用は低調に終わりました。</li> <li>雇用条件の改善については、多くの被雇用者を抱える誘致企業に対馬の現状を相談し、見直し改善を図っています。</li> </ul>
評価		
4	引き続き商工振興については、対馬市商工会との協議の中で進めて行きますが、設備投資の補助事業としては一旦終了します。今後は各店舗の魅力化についてはソフト事業の支援について研究を行い、商工会と効果的な振興策を検討していきたいと考えています。	
今後の展開		

全体	17
個別	03-04

## 平成30年度 [ 観光交流商工部 ] 目標の成果

課 名 文化交流・自然共生課

区分	項 目	国際交流イベントや朝鮮通信使行列の世界記憶遺産登録を活用した交流人口拡大
1	【 内 容 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>①対馬厳原港まつりにおける朝鮮通信使行列の再現、対馬アートファンタジアの開催支援を行い交流人口の拡大を行います。</li> <li>②日本遺産PRのための看板設置、パンフレットを作成します。</li> <li>③旅行社（者）へのマナー向上、ルール遵守の普及啓発を行い、市民の理解の促進を図ります。</li> <li>④朝鮮通信使を活用したまちづくり事業（イベント等）を実施します。</li> </ul>
組織目標	【 指 標 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮通信使行列再現への参加者数 300人</li> <li>・日本遺産PR用看板等設置 13カ所</li> <li>・添乗員、ガイド研修実施</li> <li>・朝鮮通信使によるまちづくり事業（通信使ロゴ・キャラクター作成、案内板設置、歴史マンガ、ユネスコ記憶遺産1周年記念事業）</li> <li>・資料館建設に向けた基本設計書の作成</li> </ul>
2	実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮通信使行列再現への参加者数 300人</li> <li>・日本遺産PR用看板等設置 13カ所</li> <li>・添乗員、ガイド研修実施 10名</li> <li>・朝鮮通信使によるまちづくり事業 通信使キャラクター(つしねこ)作成、PR用クリアファイルの作成（3,000部）、歴史マンガ(宗義真と対馬三聖人)、歴史講座年5回延べ150名、雨森芳洲生誕350周年事業11/24開催100名)</li> <li>・ユネスコ記憶遺産登録PR事業 バスラッピング及び対馬やまねこ空港荷物レーンラッピング、うちわ2,000枚作成</li> <li>・資料館建設に向けての設計業務 建築設計：3月契約、展示設計：次年度5月契約予定</li> </ul>
3	評価	<p>○</p> <p>韓国人観光客は年々増加し、平成30年は過去最高の約41万人を記録しました。 朝鮮通信使行列再現及び関連イベントは一定の集客等もあり交流人口拡大に繋がりました。 また、朝鮮通信使PRキャラクターも完成しました。 朝鮮通信使看板の設置及び資料館設計が繰越となりました。</p>
4	今後の展開	<p>今後は、添乗員、ガイド研修等で韓国旅行客のマナー向上に向けた、啓発活動の充実を図っていきます。また、世界記憶遺産登録を活かしたまちづくり「朝鮮通信使と言えば、対馬」のキャッチフレーズを基に朝鮮通信使によるまちづくり事業を推進いたします。</p>

全体	18
個別	03-05

## 平成30年度 [ 観光交流商工部 ] 目標の成果

課 名	文化交流・自然共生課
-----	------------

区分	項 目	ツシマヤマネコ・生物多様性保全活動の推進
1	【 内 容 】 ツシマヤマネコ等希少種の保護・啓発活動を実施します。また、特定外来生物の市民参加型防除活動、調査を行います。	
組織 目 標	【 指 標 】 ・ワイヤーメッシュによるツシマウラボシシジミ保全区域 1カ所 ・全国の動物園等における対馬の自然普及啓発事業 5カ所 ・市民参加型ツマアカスズメバチ捕獲罠設置 1,500カ所	
2	全国のツシマヤマネコ飼育動物園等でツシマヤマネコ普及啓発イベントを実施しました。また、ツシマウラボシシジミの保全区域としてワイヤーメッシュ柵で囲った保護区を設置しました。 外来種対策では、ツマアカスズメバチ防除活動への参加を市民に呼びかけ島内で広くトラップを設置しました。	
実績 ( 成 果 )	・ツシマウラボシシジミ保全区域設置 3カ所 ・ツシマヤマネコ普及啓発イベント 4カ所開催 ・市民参加ツマアカスズメバチ女王蜂トラップ設置 1,384個	
3	ツシマヤマネコ普及啓発イベントを実施したことで、全国に広くツシマヤマネコと対馬の自然の魅力をPRし保護活動の輪を広げることができました。また、ツシマウラボシシジミ保護区を設置し食草・吸蜜植物等を植栽することで、好適な生息環境を整備することができました。 特定外来生物ツマアカスズメバチの女王蜂を捕獲・駆除することで、夏以降に発生する巣を減らすことができました。	
評価	○	
4	引き続きツシマヤマネコ啓発イベントを実施し、対馬の自然の魅力をPRすることで対馬ファンを増やし、保護活動の輪を広げていきます。 また、外来種対策では環境省や研究機関と連携協力して、新たな防除手法の確立を目指し、効果的かつ順応的な防除を推進します。	
今後の 展 開		

全体	19
個別	03-06

## 平成30年度 [ 観光交流商工部 ] 目標の成果

課名	博物館建設推進課
----	----------

区分	項目	対馬固有の遺跡や文化財の保存・活用
1	【内容】 1 対馬博物館（仮称）施設の整備推進を行います。 2 対馬博物館（仮称）の開館を見据え、博物館の魅力を市内外へ発信します。	
組織目標	【指標】 1 ①博物館棟ゾーン建設工事の完成 ②展示工事の完成 ③交流棟ゾーン建設に向けた事務の実施 2 ①対馬市ホームページやfacebookを利用した情報の発信 ②博物館に関するシンポジウムの開催 2回/年	
2	1 対馬博物館（仮称）施設の整備を推進し、博物館棟ゾーン建設工事及び展示工事等を実施しました。 ①博物館棟ゾーン建設工事：全体スケジュールに影響のない範囲で工期延長 ②展示工事：全体スケジュールに影響のない範囲で工期延長 ③交流棟ゾーン建設に向けた事務：着手事務を遂行 2 対馬博物館（仮称）の開館に向けて、建設工事や博物館の取り組みについて情報を発信しました。 ①facebookを利用した情報の発信：18回/年 ②博物館に関する講演会の開催：1回/年 来場者92人（2会場合計）	
3	△	1 博物館棟ゾーン建設工事及び展示工事は、作業員確保に時間を要したため工期延長となりましたが、令和2年内には施設全体が完成する見込みです。 2 facebookや対馬市ホームページを活用することによって、市内外の多くの方々に工事の進捗状況を視覚的に伝えることができました。講演会は台風接近の影響により、1回のみで開催となりましたが、来場者には対馬の歴史や文化財に対する関心と理解を深めていただくことができました。
4	今後の展開	○博物館完成に向け、引き続き建設工事を進めていきます。 ○博物館開館を見据え、活動内容を具体的に決め、展示準備を進めていきます。 ○博物館開館準備のため、資料収蔵計画を策定して資料整理を実施します。 ○博物館周知のため、広報活動に一層努めます。



全体	20
個別	04-01

## 平成30年度 [ 市 民 生 活 部 ] 目標の成果

課 名	市 民 課
-----	-------

区分	項 目	個人番号制度の普及、啓発
1	【 内 容 】 1 番号制度について広報に定期的に記事を掲載します。 2 職員一人一人が番号制度について市民向けに概要を説明し利点をPRできるよう努めます。 3 市民のメリット向上のためコンビニにおける住民票交付、行政手続きにおける電子申請にむけた調査研究を行います。	
組織 目 標	【 指 標 】 1 個人番号制度に関する記事を広報に掲載し、CATVでの周知を行います。 2 窓口における市民向けPRを実施します。	
2		マイナンバーカードを保険証として利用できるのが令和3年3月からの予定であり、マイナンバーを使用し全国で戸籍を取得できるよう検討されてもいますが、令和5年頃実現の予定となりました。 民間企業との連携も遅れ、身分証となる以外のメリットが提示できないため広報にも一度掲載したのみで精細を欠きました。
実績 (成果)		
3		個人番号制度について周知及びPRは、回数頻度ともに不十分であったと考えます。
評価	△	
4		国は、デジタル社会の基盤であるマイナンバーカードの普及とその利便性の向上を行い、マイナンバーの利活用の促進を企図しています。 その動向を見ながらマイナンバーカードを利用し、メリットを享受できる施策について市民の皆様に周知していきます。
今後の 展開		

全体	21
個別	04-02

## 平成30年度 [ 市 民 生 活 部 ] 目標の成果


課 名	税 務 課
-----	-------

区分	項 目	滞納処分の強化																								
1	【 内 容 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財産・預貯金・生命保険等の調査及び差押えと、滞納処分の停止等滞納整理を実施します。</li> <li>・新規滞納者と早期に接触し、滞納を解消します。</li> <li>・長期差押財産の換価価値を精査し、他の滞納整理法も検討します。</li> <li>・不動産公売を強化します。 ・軽自動車税の徴収を強化します。</li> <li>・CATV、広報等により、住民税・転入出に係る諸手続きを周知し適正手続きを促進します。</li> </ul> <p>※課税概要及び手続き上の注意点等を解説し、適切な届出の必要性の理解を図ります。(名義人の変更、納税義務者の届出、社保加入・離脱、住民税申告、廃車、新築、解屋等)</p>																								
組織 目 標	【 指 標 】	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">市 税</td> <td style="width: 15%;">現年分徴収率</td> <td style="width: 15%;">98.00%</td> <td style="width: 15%;">(前年度実績)</td> <td style="width: 15%;">97.74%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>滞納分徴収率</td> <td>13.00%</td> <td>(前年度実績)</td> <td>10.25%</td> </tr> <tr> <td>国 保 税</td> <td>現年分徴収率</td> <td>93.00%</td> <td>(前年度実績)</td> <td>92.66%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>滞納分徴収率</td> <td>12.00%</td> <td>(前年度実績)</td> <td>9.81%</td> </tr> </table> <p>CATV、広報等を活用した注意喚起・・・年3回程度</p>	市 税	現年分徴収率	98.00%	(前年度実績)	97.74%		滞納分徴収率	13.00%	(前年度実績)	10.25%	国 保 税	現年分徴収率	93.00%	(前年度実績)	92.66%		滞納分徴収率	12.00%	(前年度実績)	9.81%				
市 税	現年分徴収率	98.00%	(前年度実績)	97.74%																						
	滞納分徴収率	13.00%	(前年度実績)	10.25%																						
国 保 税	現年分徴収率	93.00%	(前年度実績)	92.66%																						
	滞納分徴収率	12.00%	(前年度実績)	9.81%																						
2	平成30年度実績	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">市 税</td> <td style="width: 15%;">現年分徴収率</td> <td style="width: 15%;">98.09%</td> <td style="width: 15%;">国 保 税</td> <td style="width: 15%;">現年分徴収率</td> <td style="width: 15%;">93.79%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>滞納分徴収率</td> <td>13.34%</td> <td></td> <td>滞納分徴収率</td> <td>11.31%</td> </tr> </table>	市 税	現年分徴収率	98.09%	国 保 税	現年分徴収率	93.79%		滞納分徴収率	13.34%		滞納分徴収率	11.31%												
市 税	現年分徴収率	98.09%	国 保 税	現年分徴収率	93.79%																					
	滞納分徴収率	13.34%		滞納分徴収率	11.31%																					
実績 ( 成 果)	差押実績	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%;"></td> <td style="width: 20%;">(平成30年度)</td> <td style="width: 20%;">(平成29年度)</td> <td style="width: 20%;">増減</td> </tr> <tr> <td>・一般(預金・生命保険・給与等)</td> <td style="text-align: center;">93件</td> <td style="text-align: center;">87件</td> <td style="text-align: center;">6件</td> </tr> <tr> <td>・不動産(搜索含む)</td> <td style="text-align: center;">2件</td> <td style="text-align: center;">7件</td> <td style="text-align: center;">△5件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">95件</td> <td style="text-align: center;">94件</td> <td style="text-align: center;">1件</td> </tr> <tr> <td>滞納処分の停止実績</td> <td style="text-align: center;">366件</td> <td style="text-align: center;">322件</td> <td style="text-align: center;">44件</td> </tr> <tr> <td>不動産公売実績</td> <td style="text-align: center;">7件中5件</td> <td style="text-align: center;">12件中1件</td> <td></td> </tr> </table> <p>CATV、広報等を活用した注意喚起・・・CATVにて5回実施</p>		(平成30年度)	(平成29年度)	増減	・一般(預金・生命保険・給与等)	93件	87件	6件	・不動産(搜索含む)	2件	7件	△5件	計	95件	94件	1件	滞納処分の停止実績	366件	322件	44件	不動産公売実績	7件中5件	12件中1件	
	(平成30年度)	(平成29年度)	増減																							
・一般(預金・生命保険・給与等)	93件	87件	6件																							
・不動産(搜索含む)	2件	7件	△5件																							
計	95件	94件	1件																							
滞納処分の停止実績	366件	322件	44件																							
不動産公売実績	7件中5件	12件中1件																								
3	○	<p>徴収率は現年分0.61%、滞納分2.23%、現年滞納合計で3.23%昨年を上回る事ができ、目標に挙げていた軽自動車税も前年度徴収率を上回りましたが、国民健康保険税の滞納分については目標徴収率に届いていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預貯金・生命保険等の差押え件数や公売実績などは前年を上回っていますが、不動産の差押えについては、公売による換価が見込める物件が殆どなく、前年を下回る結果となりました。</li> <li>・ CATVや広報等を利用した諸手続きに関する注意喚起については、予定していた回数よりも多く実施できました。</li> </ul>																								
4	今 後 の 展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財産等の調査、差押え及び滞納整理の強化については今後も継続が必要です。</li> <li>・ 長期差押不動産の精査については、一件ごとに状況が異なるため時間を要するので、複数年に渡り処理を進めます。</li> <li>・ 収納率は、目標を概ね達成したものの、県内他市町と比較してもまだまだ低い状況であるため、今後も滞納処分を強化していくことが重要です。</li> </ul>																								

全体	22
個別	04-03

## 平成30年度 [ 市 民 生 活 部 ] 目標の成果

課 名	環 境 政 策 課
-----	-----------

区分	項 目	各種団体が連携したリサイクル、ゼロミッションの推進
1	【 内 容 】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ等資源の再利用システム事業に取り組みます。</li> <li>・生ごみ堆肥化推進等によるごみ量の削減を行います。</li> <li>・生ごみ堆肥化の活動を行う各種団体を支援します。</li> </ul>	
組織 目 標	【 指 標 】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ等資源再利用システム事業の実施 (平成30年度末：2,000世帯)</li> <li>・生ごみ等堆肥化推進によるごみ量の削減(生ごみ回収量：400t)</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ等資源再利用システム事業の実施 (回収世帯：1,840世帯、週2回実施)</li> <li>・生ごみ堆肥化推進等によるごみ量の削減(生ごみ回収量：333t)</li> </ul>	
実績 (成果)		
3		<p>平成30年度も生ごみ等資源再利用システム事業に取り組み、1,840世帯、週2回の回収を実施しました。また、生ごみ回収量も平成29年度(252t)より増加し、333tとなっており、ごみ量の削減にも繋げることができました。</p> <p>しかしながら、目標としていた2,000世帯、生ごみ回収量400tには届きませんでした。</p>
評価		
4	引き続き、生ごみ等の分別収集及び堆肥化に取り組み、将来的には市内全域での回収に向けて収集体制の構築を図るとともに、回収した生ごみ等については、「生ごみ等堆肥化施設」において堆肥化に取り組み、堆肥の品質及び供給体制の確立を図っていきます。	
今後 の 展 開	また、市内全地区へ協力世帯の募集を行うとともに、CATV、広報等を活用し、事業説明と周知を行います。更に回収量の増加を図るため、市内の事業所に対して事業協力依頼を行います。	

全体	23
個別	04-04

## 平成30年度 [ 市 民 生 活 部 ] 目標の成果

課 名	環 境 政 策 課
-----	-----------

区分	項 目	漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策の推進
1	【 内 容 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸漂着物処理推進法及び長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用し、漂着物被害が著しい海岸を中心に海岸漂着物の円滑な処理を進めていきます。</li> <li>・海岸漂着物等の発生抑制のための関係者間の連携・交流等を目的とした環境学習を広く開催します。（日韓市民ビーチクリーンアップ事業等）</li> </ul>
組織目標	【 指 標 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の回収・処理を参考に、漂着ごみの計画的な回収を実施します。（回収・処理予定数量：トン袋で13,000袋）</li> <li>・日韓市民ビーチクリーンアップ事業及び漂着ごみ回収イベントを実施します。（年2回実施）</li> </ul>
2	実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度の海岸漂着ごみについては、長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用しながら、トン袋で8,534袋の漂着ごみを回収しました。</li> <li>・2018日韓市民ビーチクリーンアップ事業の実施（平成30年5月20日に韓国釜山外大の学生、市民等270名が参加し、トン袋で99袋の漂着ごみを回収しました。）</li> <li>・第6回日韓海岸清掃フェスタIN対馬事業の実施（平成30年7月29日に対馬市と市民活動団体の共同主催で実施しましたが、悪天候により中止となりました。）</li> <li>・新たな取り組みとして、日韓交流海ごみワークショップIN釜山を実施（島内3高校生と釜山市へ出向き、海岸視察、釜山の大学生・高校生・NPO等とワークショップを開催しました。）</li> </ul>
3	評価	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度も長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用し、大規模な海岸漂着物の回収を行い、海岸環境や景観に対し、一定の成果が得られました。また、韓国釜山外大生との海岸漂着物回収イベント「日韓市民ビーチクリーンアップ事業」を開催し、海岸漂着物の発生抑制対策が図られました。</li> <li>・今回初めて開催した「日韓交流海ごみワークショップIN釜山」では韓国の現状を把握でき、有意義な意見交換や交流ができました。高校生も漂着ごみについて、色々と学び、今後の発生抑制に繋がるものと思います。</li> </ul>
4	今後の展開	<p>漂着ごみ対策は、大規模な回収等により、一定の成果はあがっているものの、現状は漂着、回収の繰り返しであり、今後も継続的な漂着ごみの回収に取り組んでいかなければなりません。回収、処理経費の対応のため、引き続き、国・県による財政支援を要望していきます。</p> <p>また、漂着ごみ対策の根幹である発生抑制対策に向けて取り組む必要があり、「日韓市民ビーチクリーンアップ事業」など、国際交流事業等を通じて今後も継続的に普及、啓発に取り組んでいきます。</p>

全体	24
個別	05-01

## 平成30年度 [ 福 祉 保 険 部 ] 目標の成果

課 名	福 祉 課
-----	-------

区分	項 目	高齢者の生きがいの創出
1	【 内 容 】 ・シルバー人材センター  高齢者が地域社会の担い手として活躍し、生きがいの充実や生活の安定を図ることを目的として、全島組織化の推進を図ります。	
組織目標	【 指 標 】 ・シルバー人材センター 市内全域での会員の確保を図り、シルバー人材センター会員の基礎教育の研修を実施します。また、厳原町から美津島町まで活動エリアを拡大します。	
2	・シルバー人材センター ・会員の拡大 会員数が62名から127名に増加しました。 ・研修会の実施 平成31年2月7日（上対馬会場） 参加者72名 平成31年2月8日（厳原会場） 参加者59名 ・活動エリアの拡大 活動エリアの拡大を図りましたが、美津島町全域での活動には至りませんでした。	
実績（成果）		
3	○	シルバー人材センターの全島組織化に向けて会員の確保の取り組みを進めた結果、各地区において偏りはあるものの会員数が62名から127名に倍増しました。また、市内2カ所において実務研修会を行ったところ131名の参加があり、市民への周知、センターの必要性の理解促進について一定の成果が得られました。 業務範囲の拡大については、事務局体制の整備、機材整備の遅れにより思うような拡大には、つなげることができませんでした。
評価		
4	対馬市全域での業務拡大に向けて、事務局体制の整備を行い、会員数の増加、全島的な活動につなげていきたいと考えています。 将来的には、一般社団法人の設立を経て、公益社団法人への移行を目指します。	
今後の展開		

全体	25
個別	05-02

## 平成30年度 [ 福 祉 保 険 部 ] 目標の成果

課 名	こども未来課
-----	--------

区分	項 目	入所保留（待機）児童の解消
1	【 内 容 】 保育所への需要は年々増加傾向にあり、今後もこの傾向は継続すると考えられ、保育室等の面積要件や慢性的な保育士不足に起因する入所保留（待機）児童の解消を図り、子育てしやすい環境を整備します。  親愛こども園 } 計4名（第1・第2入園希望併記のため） 厳原南保育園  【 指 標 】 ・全ての入所保留（待機）児童の解消	組 織 目 標
2	年度途中で入所希望が重なり、厳原町、美津島町管内において最大15名の入所保留（待機）児童が発生する結果となりました。	
3	共働き家庭の増加や地域情勢の変動などにより、保育所への需要が増えつつある中で、保育士の配置、保育室等の面積要件など早急に対応することが困難な状況もあり後手に回っている状況ですが、可能な限り入所に向けた対応に努めました。	評 価  △
4	慢性的な保育士不足の解消のため、現在行っているCATV、広報等による周知を継続しつつ、さらに近隣保育所の統合による認定こども園への移行検討や、地域情勢の把握による保育所の配置計画の見直し検討を含めあらゆる方策の検討を行い実行に向けた取り組みを行います。	
	今後の展開	

全体	26
個別	06-01

## 平成30年度 [健康づくり推進部] 目標の成果

課名	いきいき健康課
----	---------

区分	項目	特定健診の受診率向上
1	【内容】 第2次健康つしま21計画を推進するために、第3期特定健診等実施計画に基づき、受診率の向上を図ることで市民の健康への意識付けを行い健康寿命の延伸につなげます。  【指標】 ・特定健診受診率40%を目指します。 ・受診勧奨に努めます。 ・特定保健指導の実施率50%を目指します。	組織目標
2	CATV、広報等のメディアを活用した広報活動及び健診推進員による電話勧奨と臨戸訪問並びに健康つしま21推進員や食生活改善推進員等、地区組織などを活用して受診勧奨の活動を展開したことで、未確定ではありますが過去最高の38%強（3月末時点）となりました。	実績（成果）
3	目標としている40%に近づいた受診率を平成29年度に続き維持できました。	評価 ○
4	各旧町ごとの受診率を点検整理した結果、受診率の低い町、年代等が明確になりましたので、引き続き、市民健診の受診勧奨を地域に密着した健康つしま21推進員や食生活改善推進員などを活用しながら受診率の向上を目指します。	今後の展開

全体	27
個別	06-02

## 平成30年度 [健康づくり推進部] 目標の成果

課名	地域包括ケア推進課
----	-----------


区分	項目	第1層及び第2層の生活支援コーディネーターの配置及び協議体の設立
1	【内容】	
組織 目標		<p>日常生活上の支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続するために必要となる多様な生活支援サービスの充実を図るとともに地域における支え合いの体制づくりを推進することを目的に、今年度より本格実施する生活支援コーディネーター事業において、初年度として、第1層及び第2層の生活支援コーディネーターの配置及び協議体を設置し、事業推進を図ります。</p>
	【指標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1層の生活支援コーディネーターの配置 1名</li> <li>・第2層の生活支援コーディネーターの配置 6名</li> <li>・第1層協議体の設立 1協議体</li> <li>・第2層協議体の設立 6協議体</li> </ul>
2		
実績 (成果)		<p>対馬市全体で取り組む初年度として設定した4つの指標を全て達成し、かつ、75歳以上全ての高齢者を対象にニーズ調査を実施し、各地域で、助け合い活動の説明会やワークショップを実施して地域のニーズ把握に努め、3月には、助け合いによる地域づくりフォーラムを上対馬と厳原で開催しました。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1層の生活支援コーディネーターの配置 1名 配置完了</li> <li>・第2層の生活支援コーディネーターの配置 6名 配置完了</li> <li>・第1層協議体の設立 1協議体 設置完了</li> <li>・第2層協議体の設立 6協議体 設置完了</li> </ul>
3		
評価	◎	<p>生活支援体制整備という大きな目標に向けて、75歳以上の対馬市民全てを対象にニーズ調査を実施したことは、全国的にも対馬市だけであり、各地域での助け合い活動の説明会、ワークショップ、フォーラムの開催により、着実に地域へのアプローチができていることは大きな実績です。</p>
4		
今後の展開		<p>生活支援コーディネーター、協議体、社会福祉協議会、対馬市が、緊密な関係を結び、大きな視野に立って、地域に根ざした助け合い活動を構築します。</p>



全体	28
個別	07-01

## 平成30年度 [ 農 林 水 産 部 ] 目標の成果

課 名	農林・しいたけ課
-----	----------

区分	項 目	對馬椎茸” やる倍” ナバダス計画総合対策支援事業
1	【 内 容 】 「對馬椎茸” やる倍” ナバダス計画」に基づき、計画的にしいたけ振興策を図ります。 ①生産者のやる気を倍増 価格の安定化(生しいたけ安定価格買取) ②生産量を倍増 作業の効率化(生産団地・省力化機械器具導入、種駒補助制度) ③系統外出荷量を倍増 分業化・安定供給(量、品質、納期)に向けたルールづくり 【 指 標 】 ○しいたけ生産推進 種駒補助 1,100万個 ○對馬しいたけ販路拡大流通体制構築支援 物産展等40回 ○生産量 乾120トン 生200トン	組織目標
2	○しいたけ生産推進 種駒補助 836万個 ○對馬しいたけ販路拡大流通体制構築支援 物産展等37回 ○生産量 乾27トン 生110トン	実績(成果)
3	生産者の高齢化や後継者不足による生産者数の減を大きな理由として種駒補助の個数が目標を下回りましたが、大型のしいたけ生産施設が本格的な稼働を迎えるため将来的には植菌数及び生産量が増となる要因もあります。 物産展等についても回数は指標を下回りましたが、地道な営業活動により確実に販路は広がっています。	評価 
4	引き続き計画的に對馬しいたけの振興を図っていくこととし、しいたけ原木供給体制の確立や新規参入者の確保に取り組みながら、生産量増・消費拡大に繋げていきます。	今後の展開

全体	29
個別	07-02

## 平成30年度 [ 農 林 水 産 部 ] 目標の成果

課 名	農林・しいたけ課 有害鳥獣対策室
-----	---------------------

区分	項 目	対馬猪鹿活用促進事業
1	【 内 容 】	<p>○イノシシ・シカの被害がある地区に出向き、防護柵の位置情報、捕獲情報等の有害鳥獣対策の現状を、地域住民にフィードバックします。対策の主体は地域であり、行政は対策をサポートするため蓄積された情報を根拠に効果的な体制づくりを共に検討します。</p> <p>○被害対策を推進するための防護柵の整備については、新規柵の整備、居住区域内安全対策、家庭菜園防護柵等補助を行っており、学習会開催時に被害対策についての正確な情報提供に行います。</p> <p>○有害鳥獣の資源活用として食肉加工品や皮革製品等に取り組み、食べて美味しい、使って楽しい等、市民が有害鳥獣対策に関わるきっかけをポジティブなイメージにするため、普及啓発活動を実施します。特に学校給食での食育としての利用や担い手育成、市内飲食店等での活用を促進</p>
組織 目 標	【 指 標 】	<p>①地域主導の被害対策推進地区増加数：5地区</p> <p>②地区捕獲隊増加数：5地区</p> <p>③「イノシシ・シカに関する地区学習会」開催：10カ所</p> <p>④有害鳥獣利活用及び人材・担い手（対馬の子ども達）育成 学校給食食材利用校：全校 総合的学習「有害鳥獣対策」開催：2校</p> <p>⑤各種防護対策の実施</p>
2	実績 （ 成 果 ）	<p>①地域主導の被害対策推進地区増加数：1地区 （居住区域内安全対策として防護柵を集落周辺に設置）</p> <p>②地区捕獲隊増加数：0地区</p> <p>③「イノシシ・シカに関する地区学習会」開催：15カ所 ※農作物被害調査に基づき、委託業者が実施</p> <p>④学校給食食材利用校：全校（対馬市内全ての小中学校） 総合的学習「有害鳥獣対策」開催：1校</p> <p>⑤各種防護対策の実施（国交付金、市単独補助事業を活用）</p>
3	評 価	<p>○ 地区捕獲隊の推進を行い、地域主導の被害対策の促進が出来ました。 捕獲隊設置の意向はあったものの、地区内のイノシシ・シカによる農作物被害が減少したことは、効率のよい有害鳥獣捕獲を継続している成果と言えますが、それ故に捕獲隊結成まで至りませんでした。</p>
4	今 後 の 展 開	<p>捕獲隊については、地域が主体となり、農地や居住区域等を守っていけるように推進を行い、行政主体ではなく、あくまで地域が主役となるように引き続き推進していきます。</p> <p>イノシシ・シカの被害の減少により、捕獲隊設置の希望地区は減少していますが、農作物被害を受けている農家はまだまだあるため、捕獲隊の結成を推進していきます。</p> <p>資源活用については、多くの市民を巻き込んだ有害鳥獣対策を促進するためのツールとして積極的に取り組み、さらには、対馬の新たな産業、雇用創出に繋がり、「地域を護ることでお金になる」仕組みを構築することが望まれます。</p>

全体	30
個別	07-03

## 平成30年度 [ 農 林 水 産 部 ] 目標の成果

課 名	農林・しいたけ課
-----	----------

区分	項 目	学校給食地場農林水産物導入事業									
1	【 内 容 】 学校給食での地場農林水産物利用に係る食材供給について、特産・推奨品である椎茸・あか牛・野菜・猪鹿肉とその加工品及び水産物購入への支援を行います。										
組織 目標	【 指 標 】 安定供給体制を整備します。 地場産のたまねぎ、じゃがいもの学校給食での使用量を目標値まで増やします。										
		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">29年度（使用割合）</td> <td style="text-align: center;">30年度</td> </tr> <tr> <td>・ たまねぎ</td> <td style="text-align: center;">4816.8kg（30.5%）</td> <td style="text-align: center;">→ 5000kg</td> </tr> <tr> <td>・ じゃがいも</td> <td style="text-align: center;">2367.6kg（29.7%）</td> <td style="text-align: center;">→ 3000kg</td> </tr> </table>		29年度（使用割合）	30年度	・ たまねぎ	4816.8kg（30.5%）	→ 5000kg	・ じゃがいも	2367.6kg（29.7%）	→ 3000kg
	29年度（使用割合）	30年度									
・ たまねぎ	4816.8kg（30.5%）	→ 5000kg									
・ じゃがいも	2367.6kg（29.7%）	→ 3000kg									
2	安定供給体制の整備のため、対馬振興局、農協、学校給食栄養士協議を行いました。結果、県の奨励品種であるじゃがいもは発芽が早く取扱いが難しいことから取り扱う品種を3品種にしぼることになりましたが、たまねぎについては条件を緩和して、直径8cm以上から、直径7.5cm以上に変更しました。 地場産のたまねぎ、じゃがいもの学校給食での使用量は次のようになりました。										
実績 （成果）		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">30年度</td> </tr> <tr> <td>・ たまねぎ</td> <td style="text-align: center;">4825.1kg（32.8%）</td> </tr> <tr> <td>・ じゃがいも</td> <td style="text-align: center;">3347.2kg（37.4%）</td> </tr> </table>		30年度	・ たまねぎ	4825.1kg（32.8%）	・ じゃがいも	3347.2kg（37.4%）			
	30年度										
・ たまねぎ	4825.1kg（32.8%）										
・ じゃがいも	3347.2kg（37.4%）										
3	じゃがいもに関しては目標数量を達成し、使用割合も増えました。 また、たまねぎに関しては目標数量には届かなかったものの、昨年度の使用割合よりも増えました。										
評価	○										
4	引き続き学校給食地場農林水産物導入事業を実施することで、学校給食での地場産野菜の使用割合が増えていくことが期待できます。今後も、農家や農協に協力を仰ぎながら、安定して供給できる体制を整えて、目標達成に向けて取り組みます。										
今後の 展開											

全体	31
個別	07-04

## 平成30年度 [ 農 林 水 産 部 ] 目標の成果

課 名	農 林 ・ し い た け 課
-----	-----------------

区分	項 目	対馬の農林水産業担い手・『林業女子』育成及び『人財』発掘事業
1	【 内 容 】 市の基幹産業である漁業、林業等において、生産者の高齢化及び後継者不足により新規の担い手確保が急務です。農林産業分野の事業者、漁協等の団体、市が一体となって新規就業のための移住相談会への参加及び合同面談会を開催し、就業意向者と事業者側のマッチングの機会及び新規参入者向けの説明会などを実施します。 ○事業検討部会及び採用者向け研修会開催 ○農林水産業職業紹介映像制作 ○移住相談会及び合同企業面談会におけるポスター、チラシ作成 ○都市部及び対馬市内における移住相談会出席及び合同企業面談会開催 ○林業新規正規雇用従事者の人件費及び研修費等の一部助成	
組織目標	【 指 標 】 ○新規林業従事者5名 ○新規漁業従事者3名 計8名	
2	○事業検討会及び採用者向け研修会 3回開催 ○移住相談会参加及びお盆時期合同企業面談会開催 14回参加及び1回開催 ○移住相談会等イベント用背面・机用旗及び椅子カバー等購入 ○新規農林水産業就業者向けストーンファイル及びポリ手提袋制作 ○新規農林水産業従事者19名（うち農業1名、森林整備業7名、製材加工業1名、水産業10名）（うちIターン5名、Uターン他14名）	
実績（成果）		
3	指標を大きく上回る新規農林水産業従事者の確保及び育成ができました。	
評価	○	
4	今後は、しまづくり推進部を中心に対馬市として移住相談会&企業面談会等を通して、企業と就業希望者とのマッチングを図り、担い手・後継者の育成及び確保に努めます。	
今後の展開		

全体	32
個別	07-05

## 平成30年度 [ 農 林 水 産 部 ] 目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

区分	項 目	農林水産振興施設建設事業
1	【 内 容 】	<p>島内の優れた地域資源を活かして、島外への販路拡大や市内流通などによる、対馬産品の需要拡大によって雇用を創出し、生産者の所得向上を図ります。このための基盤となる施設整備を行います。</p> <p>【 指 標 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設建設 3, 0 0 0 m<sup>2</sup></li> <li>・備品購入 1 5 点 (急速冷凍機他)</li> </ul>
組織 目 標		
2	実績 ( 成 果 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設建設 (施設面積 3, 8 4 3. 9 7 m<sup>2</sup>、床面積 9 2 5 m<sup>2</sup>)            本体工事 (建築・電気・機械)            ⇒平成30年度末の出来高割合：約88%</li> <li>・備品購入 (1 9 件)            ⇒急速冷凍機他 6 0 点</li> </ul>
3	◎ 評 価	<p>上記実績のとおり施設建設及び備品購入に係る目標を達成することができました。</p>
4	今 後 の 展 開	<p>7月1日より供用開始し、今後も施設の適正な稼働に努めてまいります。</p>

全体	33
個別	07-06

## 平成30年度 [ 農 林 水 産 部 ] 目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

区分	項 目	島内での供給システムの構築
1	【 内 容 】	<p>生産者と販売業者の双方が、新鮮で豊かな食材を地元気軽に提供するため、一体化した島内供給システムを構築することにより、観光も含んだ島内消費額の拡大を図ります。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>(1) (一財) 対馬地域商社を核とした具体的手法の検討</p> <p>(2) 流通実証試験の実施</p>
組織目標		
2	実績(成果)	<p>(一財) 対馬地域商社を核とした具体的手法を検討する前段として、島内における対馬産品の流通実態を把握するため、調査手法等の検討を行いました。実施まで至りませんでした。</p>
3	評価	<p>目標に定めた指標の取組は行うことはできなかったが、次年度に向け、スムーズに展開できるよう、基礎資料等の準備を行うことができました。</p> <p style="text-align: center;">△</p>
4	今後の展開	<p>今後も引き続き島内の飲食店や宿泊施設等への流通実態調査を行ったうえで、実証試験に向けた具体的な手法の検討を行い、(一財) 対馬地域商社を核とした島内流通実証試験を行います。</p>

全体	34
個別	07-07

## 平成30年度 [ 農 林 水 産 部 ] 目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

区分	項 目	新規漁業研修生への支援
1	組織目標	<p>【 内 容 】</p> <p>漁業者の減少・高齢化、若年層の島外流出などにより、島の基幹産業である水産業は徐々に生産量が減少するとともに、後継者不足が深刻化しています。</p> <p>漁業後継者を確保することは地域に元気と活力を与えるうえで必要不可欠であり、将来に渡り継続して島が栄えるために最も重要な課題です。</p> <p>このため地域漁業者、行政、漁協が一体となって新規漁業者の育成・確保に向けた支援を行い、島内外から新たな漁業者の定住を促進することで、水産業の活性化を図ります。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>新規漁業研修生の確保 4名</p>
2		実績（成果）
3	評価	<p>◎</p> <p>目標値に対して175%を達成し、島内外から新規就業者が増加したことで、管内漁協の活性化と、若年層が漁港に増加することで、現有組合員にも刺激を与え相乗効果をもたらしています。</p>
4		今後の展開

全体	35
個別	07-08

## 平成30年度 [ 農 林 水 産 部 ] 目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

区分	項 目	海洋保護区の設定
1	【 内 容 】 対馬資源の持続的利用と伝統的な漁業の継承を図るため「海洋保護区」の設定を目指します。設定推進協議会は、科学的根拠に基づく科学委員会の答申や漁業者、関係団体等からの意見を検討して、区域設定や区域内の資源管理計画を策定し、国や県などに働きかけて対馬らしい海洋保護区の設定を目指します。	
組織目標	【 指 標 】 ①対馬版海洋保護区の設定に向け、対馬海洋保護区「しまうみ」管理計画等の策定・実行に取り組みます。 ②藻場の保全、再生の取組の一環として、食害生物の有効活用や対馬沿岸に適した海藻等について調査研究を行います。 ③九州大学等外部研究機関との連携を深めます。 ④対馬の豊かな海の魅力及び重要性について、広く市内外にPRします。 ⑤資源管理活動のデータ化を行います。	
2	実績（成果）	①対馬版海洋保護区の設定に向け、対馬海洋保護区「しまうみ」管理計画を策定しました。 ②食害生物の有効活用や対馬沿岸に適した海藻等について調査研究を行いました。 ③九州大学等と連携し、藻場の保全・再生に係る海藻類等について調査研究を行いました。 ④対馬市国境の島・海の魅力発信隊と協力し市内外にPRしました。 ⑤資源管理活動のデータ化を行いました。
3	評価	○ 対馬版海洋保護区設定に向け、まずは共同漁業権海域を対象とした基本計画：対馬海洋保護区「しまうみ」管理計画と実行計画：水産資源管理計画【磯資源】及び対馬沿岸藻場再生計画を作成しました。 藻場再生の取組の一環として、食害魚の有効活用や対馬沿岸に適した海藻等についての調査研究を行い、藻場の保全に努めました。 その他、対馬の豊かな海の魅力及び重要性を市内外に啓発するため対馬市国境の島・海の魅力発信隊と協力し、市内外にPRしました。
4	今後の展開	引き続き対馬版海洋保護区設定に向け、水産資源の適切な管理や藻場の保全再生等、できることから取り組んでいきます。また、対馬の豊かな海の魅力及び重要性について広く市内外にPRします。



全体	36
個別	07-09

## 平成30年度 [ 農 林 水 産 部 ] 目標の成果

課 名	基 盤 整 備 課
-----	-----------

区分	項 目	基盤整備工事の早期発注、早期完成
1	【 内 容 】 公共工事の早期発注、完成を図るため、12月末まで委託業務完了100%を目指します。 事業効果の早期発現を図るため、12月末まで工事執行100%を目指します。	
組織 目標	【 指 標 】 平成30年度建設工事発注予定額 1,038百万円 平成30年度建設工事発注予定件数 委託 4件 工事 14件  平成30年12月 委託業務完了予定額 100%目標 (35百万円) 平成30年12月 委託業務完了予定件数 委託 6件 平成30年12月 工事執行予定額 100%目標 (1,003百万円) 平成30年12月 工事執行予定件数 工事 18件 ※事業実施時において、委託費:3百万円の減、工事費:11百万円の減	
2	平成30年12月 委託業務完了額 実績額 32百万円中、6百万円 18.8% 平成30年12月 委託業務完了件数 実績件数 6件中、3件 50.00% 平成30年12月 工事執行額 実績額 992百万円中、864百万円 87.1% 平成30年12月 工事執行件数 実績件数 18件中、14件 77.8%	
実績 (成果)	漁港事業においては、委託業務の新規工種の調査及び設計が多数発生したことにより、設計協議に日数を要し進捗が遅れました。また、工事については諸手続きの遅延や、同一工種における前年度繰越工事の工期制約を受けたため執行が遅延しましたが、繰越工事は縮減傾向にあります。 林道事業については、目標を達成することが出来ました。	
3	早期着工については、国の早着認可制度等を利用して行いましたが、新規着手工種の許認可事務及び、測量、調査、設計等の委託業務や地元協議に時間を要した事により、本工事着手が遅れ目標100%達成が出来ませんでした。	
評価	△	
4	新規工種の断面決定を行い、計画的に各種事務処理手続きを完了させ、工事の早期完成を目指します。 また、地元要望に迅速に対応するため、関係者と連携を取りながら適切かつ有効な事業計画の立案に努めます。	
今後 の展開		

全体	37
個別	08-01

平成30年度 [ 建 設 部 ] 目標の成果

課 名	管 理 課
-----	-------

区分	項 目	市営住宅使用料未収金の縮小
1	【 内 容 】 対馬市営住宅家賃滞納整理事務要綱に基づき未収額の縮小に努めます。 ①滞納者には、退去者にかかわらず文書、訪問等による督促、徴収事務を行い、長期滞納者に対しては文書による確約等を締結し、分納指導を実施します。 ②確約不履行等の悪質滞納者には、裁判所による明け渡し命令等の法的手続きを行います。	
組織 目標	【 指 標 】 市営住宅使用料徴収率（現年分+滞納分） 90.00%（前年度実績84.01%） （上段：目標、下段：実績）	
	H26            H27            H28            H29            H30	
	91.84%    91.00%    91.00%    90.00%    90.00%	
	85.16%    85.28%    84.01%    83.62%	
2	市営住宅使用料の徴収率	
実績 （成果）	現年分            97.34%	
	滞納分            19.17%	
	計                    84.79%	
	市営住宅使用料	
		現年分            滞納分            合計（単位：円）
	調定額	141,252,000    27,016,880    168,268,880
	収入実績	137,490,400    5,180,100    142,670,500
	徴収率	97.34%            19.17%            84.79%
3	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞納者に対し、文書による督促事務を行い、納付依頼を実施致しました。また、個別訪問による徴収も実施しております。</li> <li>督促文書送付で未払い者（退去者問わず）に対しては訪問し、文面による納付確約又は連帯保証人へ納付指導を行いました。</li> <li>生活困窮者に対しては、無理に徴収せず実情に鑑み、他課とも調整し柔軟に対応してきました。</li> <li>徴収率は前年度より上がりましたが、目標値には達成しませんでした。</li> </ul>
評価		
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、年間を通しての対面による納付依頼を強化し、滞納対策に取り組みます。</li> </ul>
今後の 展開		

全体	38
個別	08-02

平成30年度 [ 建 設 部 ] 目標の成果

課 名	建 設 課
-----	-------

区分	項 目	公共工事の早期発注、早期完成
1	【 内 容 】	
組織 目標		公共工事の早期着工に努めることにより、市の経済流通の初動を促進し、市民生活の活性化とともに、早期完成によって市民の生活基盤の底上げを図ります。
	【 指 標 】	平成30年度12月末設計書作成件数及び予定額（測量・調査・設計） 10 件 40 百万円 《100%目標》  平成30年度12月末設計書作成件数及び予定額（工事） 19 件 1,082 百万円 《100%目標》
2		
実績 (成果)	(測量・調査・設計)	平成30年度12月末設計書作成件数 11 件 平成30年度12月末発注額 65 百万円
	(工事)	平成30年度12月末設計書作成件数 20 件 平成30年度12月末発注額 1,078 百万円  ※災害発生件数 道路3件、河川1件 査定額 12 百万円
3		
評価	◎	組織目標に掲げた設計書作成件数につきましては、委託及び工事ともに、目標以上の成果をあげることが出来ました。また、発注額につきましても、委託及び工事とも、目標額を上回ったほか、7月・8月に発生した災害（4件）への対応も行っており、目標を上回る成果であったと考えます。 参考として、昨年度の総発注件数(委託及び工事)120件中依頼関係が82件あり、うち59件を12月末までに発注しています。
4		
今後 の 展 開		公共工事の早期着工に努めることにより、市の経済流通の初動を促進し、市民生活の活性化とともに、早期完成によって、市民の生活基盤の底上げを図るものことから、今後におきましても早期発注、早期完成に努めます。

全体	39
個別	09-01

## 平成30年度 [ 水 道 局 ( 部 ) ] 目標の成果

課 名	水 道 課
-----	-------

区分	項 目	水道料金の収納率向上																		
1	【 内 容 】	<p>経営の効率化と健全な事業運営を図るためには、水道料金の収納率向上は喫緊の課題であり、今年度も前年度に引き続き、新規滞納者の発生予防、納付確認（分納）の取り組み強化、給水停止の強化に取り組みます。</p> <p>①新規滞納者の減少 ②納付確約（分納）者の取り組み強化 ③給水停止措置の強化</p> <p>【 指 標 】</p> <p>収納率（現年度分）を、下記の数値を目標に取り組みます。 対馬市水道事業 97.0%（前年度実績 96.77%）</p>																		
組織 目標																				
2	収納率	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成30年度</th> <th>平成29年度</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">実績 (成果)</td> <td style="text-align: center;">現年度分</td> <td style="text-align: center;">96.64%</td> <td style="text-align: center;">96.77%</td> <td style="text-align: center;">△0.13%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">過年度分</td> <td style="text-align: center;">61.75%</td> <td style="text-align: center;">59.62%</td> <td style="text-align: center;">2.13%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">95.14%</td> <td style="text-align: center;">95.20%</td> <td style="text-align: center;">△0.06%</td> </tr> </tbody> </table>			平成30年度	平成29年度	対前年度比	実績 (成果)	現年度分	96.64%	96.77%	△0.13%	過年度分	61.75%	59.62%	2.13%	計	95.14%	95.20%	△0.06%
			平成30年度	平成29年度	対前年度比															
実績 (成果)	現年度分	96.64%	96.77%	△0.13%																
	過年度分	61.75%	59.62%	2.13%																
	計	95.14%	95.20%	△0.06%																
3	△	<p>滞納者に対し、定期的に督促及び催告を実施し、また、給水停止等の措置を講じましたが、前年度を0.13%下回り、目標にも0.36%到達することができませんでした。</p>																		
評価																				
4	今後の展開	<p>今後も、滞納者に対する督促、催告等の納付指導を継続して行い、また、長期（3カ月以上）の滞納者に対しては、給水停止の措置を強化し、納付意識の高揚に努めていきます。</p>																		

全体	40
個別	09-02

## 平成30年度 [ 水 道 局 ( 部 ) ] 目標の成果

課 名	水 道 課
-----	-------

区分	項 目	水道事業の有収率向上						
1	【 内 容 】	<p>水道事業を経営していく中で、有収率（浄水場で作られた水量と実際に家庭等の蛇口から出て使われた水量の割合）対策は、重要な課題となっております。</p> <p>対馬市の水道事業の有収率は、近年、70%前後を推移しており、平成29年度は、71.27%と若干改善しましたが、まだまだ浄水場で作られた水の3割程が漏水している状況です。</p> <p>有収率の向上は、水道事業の経営安定化ためには、必要不可欠な問題となっております。</p> <p>今後、年次的に配水管等の漏水対策を行い、有収率の向上に努めていきます。</p>						
	【 指 標 】							
		<p>平成30年度有収率を、72.50%以上にします。</p> <p>(平成29年度有収率：71.27%)</p>						
2	有収率							
実績 (成果)		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>平成29年度</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>71.68%</td> <td>71.27%</td> <td>0.41%</td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	平成29年度	対前年度比	71.68%	71.27%	0.41%
	平成30年度	平成29年度	対前年度比					
71.68%	71.27%	0.41%						
3	△	<p>配水管等の漏水対策や老朽管の布設替えを行った結果、前年度を0.41%上回りましたが、目標に対しては0.82%下回り目標を達成をすることができませんでした。</p>						
評価								
4		<p>今後も、年次的に配水管等の漏水対策を実施し、更なる有収率の向上に努め、有収率70%以上維持することを目指します。</p>						
今後の展開								

全体	41
個別	10-01

## 平成30年度 [ 中 対 馬 振 興 部 ] 目標の成果

課 名	地 域 振 興 課
-----	-----------

区分	項 目	中対馬未来づくりアクションプラン 個別事業の実現化準備
1	【 内 容 】 「中対馬未来づくりアクションプラン」個別事業の整備スケジュールにおいて、短期に位置づけられたものから、それぞれ必要な調査、協議、説明会などを行い、実現化に繋がれるよう各事業を推進するとともに、事業についての部課内の共有を図ります。	
組織 目標	【 指 標 】 事業によって準備内容は異なりますが、平成31年度から少しでも多くの事業を実施できるように、平成30年度は地区の協議、各種申請手続関係等の調整を行います。	
2	地方創生推進交付金を活用し、3カ年で、キャンプ場再整備事業、古民家活用事業、フラワーロード整備事業、定置網体験事業、青海の花畑スポット整備事業の5事業に着手する計画を策定しました。 その中で、平成30年度は、キャンプ場再整備事業、古民家活用事業、青海の花畑スポット整備事業に着手しました。	
実績 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプ場再整備事業：2人用コテージ4棟建設に係る実施設計の準備</li> <li>・古民家活用事業：対馬スイーツ料理教室（5回分）の準備</li> <li>・青海の花畑スポット整備事業：地区説明会を4回開催</li> </ul>	
3	事業には多額の費用を要し、各事業を推進していくためには補助金の活用が前提となり、上記8つの事業全てを実施することは出来ませんでした。が、実施できていない事業についても、関係部署や関係者との協議、補助金の検討や現地測量などのアクションは起こすことが出来ました。	
評価	○ また、準備が整った3つの事業については、地区説明会を開催し、事業の推進について承認を得る等、どの事業についても関係者、関係部署との連絡調整を密に行い、現時点では順調に進んでいます。	
4	まずは、地方創生推進交付金の申請内容に従い、3カ年の計画を予定通り実施できるよう努めていくとともに、現時点で補助金等の活用の目途が立っていないため、保留となっている事業について再検討します。	
今後の 展開	また、5つの事業以外で中対馬未来づくりアクションプランに記載している事業についても再度検討し、着実に推進していきます。	

全体	42
個別	11-01

## 平成30年度 [ 上 対 馬 振 興 部 ] 目標の成果

課 名	地 域 振 興 課
-----	-----------

区分	項 目	対馬の自然を活かした観光地の整備
1	【 内 容 】 ○三宇田キャンプ場改修 日本の渚百選である三宇田浜のロケーションを活かし、施設利用者のニーズに対応したキャンプ施設に改修します。	
組織 目 標	【 指 標 】 ・街路灯の設置及び炊事棟の新設 ・進入路の整備 ・管理棟の移設	
2	・当初は、年度毎に設計・施工と進めていく予定でしたが、近隣でのグランピング施設の開業等による状況の変化等があったため、事業全体を見直し、平成30年度はそのための基本・実施設計を行うための契約を締結しました。	
実績 (成果)		
3	△ 周辺状況の変化等により事業全体の見直したため、当初予定していた事業は実施せず、平成30年度は事業全体の基本・実施設計のための契約を締結しました。また、契約の締結が遅れたため、次年度に繰越となりました。	
評価		
4	基本・実施設計を受けて、令和元年度～3年度にかけて事業を実施します。	
今後の 展開		

全体	43
個別	11-02

## 平成30年度 [ 上 対 馬 振 興 部 ] 目標の成果

課 名	北 部 建 設 事 務 所
-----	---------------

区分	項 目	公共工事の早期発注、早期完成																
1	【 内 容 】 市民生活の活性化と基盤整備の底上げを図るため、公共工事における測量・設計等委託の計画的な発注と事業用地の早期取得を行い、12月末までに事業費の100%以上の発注となるよう、早期発注及び早期完成を目指します。 【 指 標 】 平成30年度12月末発注件数及び予定額（測量・調査・設計委託） 総務費 8件 104百万円 農林水産業費 2件 12百万円 土木費 3件 10百万円 平成30年度12月末発注件数及び予定額（工事） 5件 185百万円 6件 198百万円																	
2	実績（成果）	平成30年度12月末発注件数及び確定額  <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">（測量・調査・設計委託）</td> <td style="text-align: center;">（工事）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総務費</td> <td style="text-align: center;">8件 70百万円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>農林水産業費</td> <td style="text-align: center;">2件 10百万円</td> <td style="text-align: center;">5件</td> <td style="text-align: center;">168百万円</td> </tr> <tr> <td>土木費</td> <td style="text-align: center;">4件 13百万円</td> <td style="text-align: center;">6件</td> <td style="text-align: center;">173百万円</td> </tr> </table>		（測量・調査・設計委託）	（工事）		総務費	8件 70百万円			農林水産業費	2件 10百万円	5件	168百万円	土木費	4件 13百万円	6件	173百万円
	（測量・調査・設計委託）	（工事）																
総務費	8件 70百万円																	
農林水産業費	2件 10百万円	5件	168百万円															
土木費	4件 13百万円	6件	173百万円															
3	評価	○ 組織目標に掲げた早期発注、早期完成については、12月末までの執行率が目標の100%に届かず、結果的に3件の工事が繰越となりましたが、目標設定以外の依頼工事において、これまで以上の成果をあげることができたので、概ね達成できました。																
4	今後の展開	今後におきましても、市民生活の活性化と基盤整備の底上げを図るため、公共工事の早期発注と早期完成に努めます。																



全体	44
個別	12-01

## 平成30年度 [ 消 防 本 部 ] 目標の成果

課 名	総 務 課
-----	-------

区分	項 目	地区消防団員の増員、車両の適正配置及び資機材の充実整備
1	【 内 容 】 消防団員の実員数は、依然として定数を割り込んでいる状況です。本年度も基本消防団員の増員を図ります。特に若年層の消防団員の増員を図ります。 消防団車両の適正配備及び資機材の充実整備を計画的に行います。	
組織 目標	【 指 標 】 ●各地区基本消防団員の増員を図ります。 ●消防団車両の適正配備計画に沿った車両の更新を進めます。 ●計画的に消防団資機材の充実強化を図ります。	
2	●団員増強 機能別消防団員の増員（9人増員）、女性消防団員の増員（1人増員） ●団車両配備及び更新 消防ポンプ自動車 1台 ●団資機材、配備品等計画 防火衣20着、発電機3基	
実績 (成果)		
3	△	消防団員の増加については基本的消防団員数は減となったものの機能別消防団員及び女性消防団員の加入は増加しました。 消防団員の安全装備品配備について、平成30年度は計画通り配置、配備が出来ました。
評価		
4		今後もより一層計画に基づいて配置、配備を進めていきます。
今後の 展開		

全体	45
個別	12-02

平成30年度 [ 消 防 本 部 ] 目標の成果

課 名	警 防 課
-----	-------

区分	項 目	応急手当の普及啓発活動		
1	【 内 容 】 救急隊到着まで、現場に居合わせた市民による応急手当（心肺蘇生法・AEDの活用）は、救命率の向上及び救命予後を左右し重要です。島内設置のAED活用の重要性について、CATV、市報等で周知し、広く応急手当等の普及啓発活動を進め、救命率の向上を図ります。			
組織 目標	【 指 標 】 目標受講者数：延べ1,300名			
2	応急手当普及活動実績（過去3年）			
実績 (成果)	講習種別	28年度中	29年度中	30年度中
	総受講者数	37回 1,223名	50回 1,187名	46回 1,275名
	普通救命講習	21回 332名	17回 182名	21回 331名
	救急法講習	16回 901名	33回 1,005名	25回 944名
	市民によるAED使用の救急事案状況（過去3年）			
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
AED使用件数	6件	AED使用件数 4件	AED使用件数 1件	
ショック適応件数	1件	ショック適応件数 3件	ショック適応件数 0件	
3	○	昨年度の目標受講者数1,300名に対し、1,275名の市民が応急手当講習を受講され、目標達成率は、98%となりました。一昨年度は救急事案においても、市民が地区に設置されたAEDを活用し、救急隊到着時に傷病者が心拍再開したという実績もありました。目標受講者数には届かないものの、実際に市民がAEDを活用することで救命のリレーを確立できた事は、今後の救命活動においても大きな飛躍の一步であると確信します。今年度も引き続き市民の皆様へ応急手当及びAEDの効果や重要性を指導推進し、島内における救命のリレー向上を目指します。		
4	今後の展開	今後も継続して市民の皆様に応急手当の重要性、普及啓発を図ります。119受報時の口頭指導に併せて、AED設置位置の情報を区長会議等で提供致します。また、実際の救急事案の救命リレー成功例を市民の皆様にご周知しながら、更なる対馬島内における救命リレーの質の向上を図り、傷病者の社会復帰を最終目標に普及啓発活動を展開致します。		

全体	46
個別	12-03

## 平成30年度 [ 消 防 本 部 ] 目標の成果

課 名	予 防 課
-----	-------

区分	項 目	違反公表制度開始に伴う消防用設備等設置指導
1	【 内 容 】 1 今年度より、違反公表制度が開始されたことに伴い、違反の存する防火対象物に対し、早期の査察を実施します。 2 重大違反対象物に対し、公表後の違反処理への移行等を十分説明し、消防用設備等を早期設置の指導を行います。  【 指 標 】 1 4月末より、消防用設備等の未設置対象物に対し、順次査察を実施しホームページでの公表に際し不公平感を与えないようにします。 2 公表を行わなければならない重大違反対象物は、現在4施設6棟存在するため、立入検査、電話において指導し、重大違反「0」を目指します。	
組織 目 標		
2	実績 (成果)	1 違反対象物の公表を行いました。 (現在：1施設1棟を公表)  2 公表を行わなければならない重大違反対象物は4施設6棟存在しましたが、立入検査、電話指導等により現在2施設3棟に減少しました。
3		立入検査、電話指導により重大違反対象物への指導で違反施設が減少しました。 (現在：2施設3棟)
4	評 価  △	
今後の 展 開		引き続き、重大違反対象物に対し、立入検査、電話により消防用設備等の早期設置の指導を行っていきます。

全体	47
個別	13-01

## 平成30年度 [ 教育委員会事務局 ] 目標の成果

課名	教育総務課
----	-------

区分	項目	島っこ留学制度による留学生の招致推進
1	【 内 容 】 「島っこ留学制度」は、豊かな学びと地域における体験活動等を願う島外の方を対象に、市内の小・中学校に入学または転学を希望される児童・生徒を受け入れ、対馬市の学校並びに地域の活性化と教育の振興・充実を図る事を目的として平成27年11月からスタートした制度です。 複式学級の解消にも有効で、今年は、西小校区、仁田小校区等を受入地域として体験留学、広報事業を実施します。また、里親を再募集するとともに「島っこ寮」の整備を推進します。	
組織目標	【 指 標 】 ・留学生招致 3名以上（小学生若しくは中学生） →体験留学（5組10名程度）を実施します。 →専用HP・SNSに重点をおいた広報事業を実施します。 →福岡での事業説明会を1日実施します。 →島っこ寮をモデル的に1棟整備する準備をします。	
2	里親として三根地区2名・仁田地区2名の計4名を確保できました。 平成30年度4名の留学生のうちの3名と、平成31年度新規で7名の留学生を招致できました。	
実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西小学校 3名（3年女子 1名、5年男子 1名、6年男子 1名）</li> <li>・西部中学校 5名（1年男子 2名、1年女子 1名、2年男子 1名、3年男子 1名）</li> <li>・仁田中学校 2名（1年男子 1名、3年男子 1名） 合計10名</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初の2年間は招致ができませんでしたでしたが、平成29年度は4名（うち1名は3月修了）、30年度は7名の留学生招致に成功しました。</li> <li>・体験留学では、5世帯13名の参加者があり、うち4名が留学生となりました。</li> <li>・福岡事業説明会に4名の参加者があり、うち3名が留学生となりました。</li> <li>・事前視察を7世帯受け入れ、うち5名が留学生となりました。</li> <li>・広報・啓発事業は専門業者と委託契約し、ホームページの運営・更新、活動写真撮影、SNS等による情報発信、チラシ作成を実施しました。</li> </ul>	◎
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里親を確保するため、再度募集をかける必要がありますが、非常に困難な状況です。</li> <li>・受入体制の充実を図ることが急務であります。</li> <li>・SNS等インターネットを利用した広報活動や情報発信に重点をおいて展開する必要があります。</li> <li>・体験留学は、体験希望児童生徒のうち、可能性が高い方から選出し、効果を高める必要があります。</li> </ul>	
今後の展開		

全体	48
個別	13-02

## 平成30年度 [ 教育委員会事務局 ] 目標の成果

課名	学校教育課
----	-------

区分	項目	ふるさと対馬を愛し、豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成	
1	【内容】 [対馬の未来を担う人材育成のための教育の推進] 1. 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 2. 心豊かでたくましく、郷土を愛する児童生徒の育成 3. 生徒指導及び特別支援教育の充実 4. 校種間連携、地域との連携の推進 5. 幼稚園・こども園教育の充実 【指標】 1. 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 (1) 学校訪問時及び各種研修会における指導助言(2) ICTを活用した授業支援、研修会の実施 2. 心豊かでたくましく、郷土を愛する児童生徒の育成 (1) ふるさと学習及び総合的な学習の時間の全体計画作成(2) 部活動休養日の設定(3) フッ化物洗口推進事業 3. 生徒指導及び特別支援教育の充実 (1) SSW及びSCとの連携と効果的活用(2) 教育支援委員会の充実 4. 校種間連携、地域との連携の推進 (1) 中学校と高等学校の連携強化 5. 幼稚園・こども園教育の充実 (1) 特色ある園づくり	組織目標	
2	1. 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 (1) 指導法改善研修会を小・中で各1回、合同で1回。研究指定校8校の支援しました。 2. 心豊かでたくましく、郷土を愛する児童生徒の育成 (1) 全ての学校において、ふるさと学習全体計画を作成しました。 (2) 新任校長校等11校を訪問し、道徳の授業参観と指導助言を実施しました。 3. 生徒指導及び特別支援教育の充実 (1) SSWと3回、分教室の担当者と4回の情報交換会を行いました。 (2) 不登校児童生徒の調査を毎月実施した。状況改善には至っていません。 (3) 「フリースペースみちしるべ」を、市運営の「教育支援センター」として新設しました。 4. 校種間連携、地域との連携の推進 (1) SSW及びSCとの連携と効果的活用を図ることができました。 (2) 対馬市中高連携競技系を立ち上げ、また、上対馬高と豊玉高の魅力化推進協議会に参加しました。さらに、対馬市上地区連携型中央一貫教育に係る推進協議会を1回開催しました。 5. 幼稚園・こども園教育の充実 (1) 園長会を5回、研修会を5回実施しました。また、比田勝こども園の研究園援助を実施しました。		実績(成果)
3	各種研修会や学校訪問、研究指定校事業などを計画通りに実施し、教職員への指導や助言を通して、目標の実現に努めることができました。 ○ (1) 確かな学力の定着に向けて、指導法改善研修会や複式指導法研修会等の各種研修会を実施して教職員の指導力向上に努めることができました。 (2) 10年経験者研修や学校訪問等の際に、道徳の授業参観や授業づくりの指導を行い、道徳教育の充実につなげることができました。		
4	(1) ふるさと学習の一層の充実に資するため、各学校の全体計画の工夫や、校種間連携を意図した学習内容の整理を指導します。 (2) ICT機器の効果的かつ積極的な活用を促すとともに、教職員を対象とする研修の充実に努めます。 (3) 今年度開設した、「教育支援センターみちしるべ」の活動を支援するとともに、今後の在り方について随時検討していきます。 (4) 今年度導入予定の校務支援システムの効果的な活用や管理職員への指導を通して、教職員の働き方改革を推進します。		今後の展開

全体	49
個別	13-03

## 平成30年度 [ 教育委員会事務局 ] 目標の成果

課名	生涯学習課
----	-------

区分	項目	地域の特徴を活かした生涯学習の推進
1	【内容】 ○ しまの魅力に会う 日本の宝「しま」交流支援事業 長崎県内の離島（対馬、壱岐、五島）3地区で「しまの魅力に会う交流支援事業」が開催されます。 本市では、7月24日～27日までの4日間、「対馬shima大作戦」と題して夏休みの思い出づくり事業を実施します。 「しま」の人々や参加者同士の交流を深めるとともにシーカヤックやツシマヤママネコ（自然）など、特有な文化、対馬の魅力をも再認識し、実行委員会を中心として、しま全体をフィールドとした活動により、地域教育力の向上と島の活性化の支援を目指します。	
組織目標	【指標】 ○ こどもコース（3泊4日） ○ 小学4年生～中学3年生コース 定員：島外40名、島内20名 ○ 大学生・高校生・教職員ボランティア 10名	
2	県内全体の事業目的として、「国境離島の重要性を認識させる」という項目が新たに追加されたことや、より事業内容が伝わるようにするためにテーマを「つくる・しる・まじわる『つしま』大作戦」に変更しました。また、平成29年度の活動場所は中対馬・下対馬が中心となっていたものが、平成30年度は対馬市全体を網羅した形の体験プログラムを計画し、実施することができました。また、実行委員会委員数も平成29年度7名から平成30年度9名に増加しました。 実施した体験活動は下記のとおりです。 ・権現山トレッキング（上対馬地区） ・ツシマヤママネコを知る（上県地区） ・対馬青年の家での野外炊飯（峰地区） ・渡海船クルージング（豊玉地区） ・シーカヤック体験（美津島地区） ・地藏盆体験（厳原地区）	
実績（成果）	【成果】 ○ こどもコース（平成30年7月24日から7月27日までの3泊4日） ○ 小学4年生～中学3年生コース 51名（島外39名、島内12名） ○ 大学生・高校生・教職員ボランティア 8名	
3	対馬市全体を網羅した体験プログラムの企画ができたことによって、参加者は対馬の魅力を感じました。参加者に対する事後アンケートでも95%が「とても楽しかった」と回答しており、その満足度も高かったと言えます。 しかし、60人（市外40人、市内20人）を参加予定としていたところ、実際の参加者は51名でした。市外参加者については、直前のキャンセルによるものですが、市内参加者については、定員を下回る参加申込数でした。	
評価	△	
4	より充実した体験プログラムを企画するため、実行委員会委員を増加させます。また、次年度は、体験プログラムによるインプットだけでなく、対馬での体験を経て、その成果をアウトプットする活動を取り入れ、参加者に対して、より深い学びを提供できるような事業内容の検討を行います。 また、参加者の募集について改善を図り、より多くの子どもに学びの機会を提供できるよう努めます。	
今後の展開		

全体	50
個別	13-04

## 平成30年度 [ 教育委員会事務局 ] 目標の成果

課名	文化財課
----	------

区分	項目	文化財の保存・活用
1	【内容】 ① 指定文化財の保存整備を継続して実施します。 ② 「豆酩赤米行事周知事業」を実施します。	
組織目標	【指標】 ① 国指定史跡2箇所、県指定史跡1箇所の整備を継続して取り組みます。 ② 豆酩地区のみに伝わる伝統文化「赤米行事」への理解と支援が拡がり、将来に渡って継承されるよう、見学・学習ツアー等を行います。  ツアー実施時期：9月上旬～中旬の間の1日 参加者 目標25名	
2	① ほぼ予定通り保存整備工事を実施しました。  ② 赤米の見学・学習ツアーを平成30年9月15日に開催し、目標としていた25名の方々に参加いただきました。	
実績（成果）		
3	◎	① 史跡整備については、計画どおり実施することができました。  ② 参加者数については、目標としていた25人の方々に参加いただき、大変好評でした。「また開催して欲しい」との声も聞くことができ、赤米行事に対する理解も得られたものと思います。
評価		
4	① 史跡整備については、平成30年度をもって第1期の整備期間を終えますが、令和元年度からの数年間は、次期整備へ向けた方針を定める大切な時期となります。まず最初の2年間は、「金石城跡」、「旧金石城庭園」の保存活用計画の策定を目指します。  ② 令和元年度は、赤米行事が伝承されている岡山県総社市、鹿児島県南種子町、対馬市の関係者が対馬に一同に会し「赤米サミット」を開催します。また、小学生同士の交流も深めるため「赤米交流事業」を開催します。	
今後の展開		